
平成27年 第1回(定例)日出町議会会議録(第3日)

平成27年3月5日(木曜日)

議事日程(第3号)

平成27年3月5日 午前10時00分開議

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

本日の会議に付した事件

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

出席議員(15名)

1番	岡山 栄蔵君	2番	阿部 真二君
3番	上野 満君	4番	金元 正生君
5番	川西 求一君	6番	岩尾 幸六君
7番	土田 亮治君	8番	池田 淳子君
9番	工藤 健次君	10番	安部 三郎君
11番	森 昭人君	12番	白水 昭義君
13番	佐藤 隆信君	14番	佐藤 二郎君
16番	熊谷 健作君		

欠席議員(なし)

欠 員(1名)

事務局出席職員職氏名

局長	小野裕一郎君	次長	安田加津浩君
----	--------	----	--------

説明のため出席した者の職氏名

町長	工藤 義見君	副町長	今宮 禮二君
教育長	西野 智行君	会計管理者兼会計課長	阿部 孝君
総務課長	村井 栄一君	財政課長	川野 敏治君
政策推進課長	井川 功一君	契約検査室長	佐藤 義人君
税務課長	脇 英訓君	住民課長	佐藤久美子君
福祉対策課長	原田 秀正君	健康増進課長	高倉 伸介君
生活環境課長	佐藤 寛爾君	商工観光課長	河野 晋一君
農林水産課長	岡野 修二君	都市建設課長	村岡 政廣君
上下水道課長	大塚 一路君	農業委員会事務局長	宮本 洋二君
教育委員会教育総務課長	宇都宮敏樹君	教育委員会学校教育課長	恒川 英志君
生涯学習課長	野上 悟君	監査事務局長	岩尾 修一君
総務課長補佐	藤本 英示君	財政課長補佐	帯刀 志朗君

午前10時00分開議

○議長（熊谷 健作君） 皆さん、おはようございます。

開議の宣告

○議長（熊谷 健作君） ただいまの出席議員は15名です。定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

会議の議事は、お手元に配付しております議事日程により行います。

日程第1. 一般質問

○議長（熊谷 健作君） 日程第1、昨日に引き続き、一般質問を行います。

なお、議会報編集特別委員会委員長より、昨日に引き続き、議会報編集のため一般質問者の写真撮影の許可の申し出がありましたので、これを許可します。

11番、森昭人君。

○議員（11番 森 昭人君） 11番、森でございます。2定例会ぶりに一般質問となりますが、一般質問させていただきます。今回の一般質問は、3点大きな項目で、財政状況、給食センターの建てかえ、南端小中学校の運営ということについてであります。

財政状況につきましては、全ての課の事業が起因をするということですので、恐らく1回目の答弁、財政課長が答弁の準備をしてくれていると思いますが、その前に1番目の質問にかかわってきます

ので、ちょっと何課か課長さんに財政状況についてどういう判断をしていらっしゃるのかということをお聞きをさせていただきたい。その後で、口述書をちょっと読みまして一般質問をさせていただきたいと思います。

では、政策推進課、健康増進課、都市建設課、農林課、商工課、そして教育長、現在の財政状況についてどのような印象を持ってるかということ、もう端的で結構です、一言で結構ですので、お答えをいただきたいと思います。

あとの質問は、質問席から行います。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長、井川功一君。

○政策推進課長（井川 功一君） それでは、森議員の御質問にお答えをさせていただきたいと思っています。

今の町の財政状況でございますが、順調に推移しているというふうに判断しております。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長、高倉伸介君。

○健康増進課長（高倉 伸介君） 今の質問にお答えいたします。

私どものところ、特別会計につきましては、年々増加しているということで、その増加というのは利用者が多いということに起因するものであろうかと思っています。その中でも、利用料、いわゆる税とか保険料等を抑えながら、順調にやっているんじゃないかと思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長、村岡政廣君。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 皆さん御存じのように、私ども都市再生整備計画で暘谷駅、今年度予算計上させていただいております。今年度は大変厳しいのではないかとこのように思っているところでございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長、岡野修二君。

○農林水産課長（岡野 修二君） 農林水産業につきましては、大変厳しい状況でございます。その中で、農業、水産業を中心にまだまだ予算的には少ないのではないかと、もっとつけていってもいいのではないかと、そのように思っております。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長、河野晋一君。

○商工観光課長（河野 晋一君） 町の財政状況につきましては、もう単独でやっている中で、やっぱりどうしても厳しいのではないかとこのように思っております。そういう中で、観光振興また企業誘致等にかかなりの予算を使っている状況でありますので、そういう補助金とか今回の地方創生に絡めた形でうまく活用して、観光振興、企業誘致につなげていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 教育長、西野智行君。

○教育長（西野 智行君） 森議員の教育行政の中での予算であります。（「日出町全体の予算」と発言する者あり）全体的には、教育財政も含めてであります。財政面では大変苦しい財政運営にあるのではないかなというふうに思っております。したがって、後ほど御質問もいただくようではありますが、給食センター、十数億の総費用が見込まれております。そういった中で、大規模なものについては一定程度の計画的な予算執行、これが必要だろうというふうに感じております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） それを踏まえて、各課長の財政に関する印象をお聞きしましたが、それを踏まえながら順次質問をさせていただきたいと思っております。では、とりあえず一生懸命つくりましたので、口述書を少し読ましていただきたいと思います。

それでは、最初の質問ということで、財政状況についてであります。私の所感でありますけれども、日出町は平成17年に行財政改革プランを策定をいたしまして、自律したまちづくりを目指し行革を進めてまいりました。17年からの4年間は各種事業の見直し、これはもう議会も含めてですけれども、人件費を削減いたしまして、この4年間、一般会計が80億円を下回る当初予算、徹底した抑制予算で健全財政の基礎を築き、財政調整基金はこの4年間で4億6千万円増加、減債基金も含む全ての基金では、この4年間で総額6億1千万を積み増しております。その後、21年以降は国の景気対策や学校施設の改築や耐震が実施をされまして、一般会計の決算額は90億円前後で推移をいたしました。引き続き行財政改革は継続して実施をされまして、次の21年度からの4年間、基金は4億1千万を積み増し、その後基金の総額は22億円台で推移をしております。その間、地方債残高も総額で着実に減少をしております。そして、27年度予算一般会計当初予算で、初めて100億円を超える大型予算が提案をされております。

財政状況をどう捉えての結果としてこの予算なのか、また査定前の金額がどの程度だったのかちょっと気になるところでありますが、そういう意味で、日出町の現在の財政状況、担当課である財政課のお考えをお聞きしたいと思います。お願いします。

○議長（熊谷 健作君） 財政課長、川野敏治君。

○財政課長（川野 敏治君） 森議員の御質問にお答えいたします。

本町の財政状況につきましては、ただいま御質問の中で述べられたとおりでございますが、平成25年度決算に係る財政指標から判断いたしますと、各種基金の残高が少ないことにより、将来への負担比率についてはよくないものの、公債費の負担、経常一般財源の比率等は、県下市町

村の中でも真ん中ぐらいに位置していると思います。ただし、本町の弱点でございます基金残高につきましては、将来の財政負担に備えるためにさらなる積み増しをすべきとそういうお声もお聞きしておりますが、ただ、町政の諸課題の解決に向けまして、必要な政策には予算づけをして、積極的に事業に取り組む必要があると考えております。

平成26年度決算見込みにつきましては、基金繰入金が前年度に比べ若干増額となっておりますが、後年度の財政運営には支障を来す状況にはないものと判断をしておるところでございます。また、平成27年度当初予算におきましても、予算規模は膨らんでおりますが、単年度で終了する事業も相当数あります。ということで、一時的なものと考えておりますので、現時点では財政状況の悪化が危惧される状況にはないと私どもは判断をしておるところでございます。

今後とも、国、県、各種団体等と協議してまいりまして、財源の捻出等を図りながら、健全な財政運営に努めていきたいと考えておるところでございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） 先ほど、5課の課長それから教育長に答弁をいただきました。

それぞれの課長は持ってる印象というのは、また課の特質、性質もありますので違うと思いますが、私は正直言って厳しいということをお答えするのかなと思ってましたけれども、順調に推移してるということ、おおむね順調だということです。

ちょっと気になるのが、27年度当初予算の概要、過去最大で前年度と比較して大幅な伸びになったと。さてと、25年度決算ではというところが始まって、基金を2年ぶりに取り崩し、地方債も増加傾向にあると。また、財政指標の悪化にもこれ詳しく触れてるんです。実質公債費比率8.9%、経常収支比率89.9%、将来負担比率65.7%、いずれも実質公債費比率は前年よりは改善したというようなお話ですけれども、ほかのことに関しては、悪くなっているよと。あえて、この概要の部分、12行を使ってそのことを触れてるんです。これ、過去、当初予算の概要を見ても、このような書き方してないんです。あえて、今回このように決算に触れて、指標に触れて、こんだけの紙面を割いて記述をしてるということは何かの意図があつてのことでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 財政課長。

○財政課長（川野 敏治君） 今回の27年度一般予算の概要について、特に数値に触れましたのは、特に2点ほどございます。

まず、基金の残高が、御存じのように若干今減少傾向にあります。財政調整基金及び減債基金、財源調整用の基金でございますが、平成27年度につきましては、これはあくまで予定でございますが、現在10億程度までに減少してきている。そして、また地方債等につきましては、現在

増加傾向でございます。また、長期計画的には、広域圏それから消防組合、浄化組合等の施設の増改築そういうことに伴いまして、今後28年及び29年ぐらいから、そちらのほうの償還金等もだんだん増額してくるような状況になってまいります。そういうことを踏まえまして、現在やっております事業等につきましても、やはり完成まで持っていけないと悪い認識は持っておりますが、将来的にはやはりそういう負担等につきましてもだんだん増額していくという危機感的なものは我々なりにも持っているところでございます。

そういうことで、今回はある程度その指標を表に出しまして、現状を認識できるような資料として表記をさせていただいたところでございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） これ、今おっしゃるように、お示しになられたということですが、いいほうに捉えていいのか悪いほうに捉えていいのか、過去こういう記述はなかったわけですから。各課長さんもそれから職員の方々も、課長さんが実際現場でどういうお話をしてらっしゃるかわかりませんが、以前にも、私、新規事業のことについて、各課で1年間練り上げて次年度に何か単費を使って人口増加施策にしても、町の景気浮揚あるいは町の発展に寄与するような新規事業を、100万でも200万でもというお話をしたことがあります。

これ2番目の質問になるんですけれども、その辺でこういう記述が、実際どういうお話されてるかわかりませんけれども、ここ、文書に載るような形になるとどうしてもやっぱり厳しいんじゃないかと、これ以上、先ほど教育長もお話にありました、後で質問しますけれども、給食センターであるとか、昨日、佐藤議員が質問しまして、私も質問したことがありますけれども、小中学校の児童生徒の通院費に関しても、恒久的な予算についてはなかなかするのが難しいと、提案すらできないと、課の中で協議にもならないというようなことでは、やはり困るんです。どの線を切って、財政が悪いとか、再生団体の基準もありますよね。あそこまで日出町が行くっていうことは、まず考えられないんです。限られた予算の中でいろいろやっていくということなんですけれども、町の発展に寄与するような新しい施策を協議できるようなやはり環境をつくっていただきたいというふうに思ってます。

それで、財政のことについてなので、全ての課に起因するというお話しましたが、きのう、私、ちょっと予算書見ててびっくりして目を疑ったんですけれども、国保会計が前年度対比4億6千万ふえてるんです。これ、過去最大っていうか、今まで見たことのないような数字。とうとう、介護、国保を合わせて60億を超えました。62億です。これこそ、何を置いても財政状況の悪化の大きな一因になる。もう、このことは随分前から私も言ってますけれども、何か策をとらないと、このまま行けば、団塊の世代が70超え、75、80になったときに、それこそ一般会計

を超えるような介護、国保の金額になってしまうと。この4億6千万、これ、恐らく閉会中もこの金額わかってた、何が原因でこういうふうになっているのか。一般会計からの繰り出しもそんなに変わってないですよ。ちょっと、答弁いただけますか。

ぜひ、こういうことは事前にわかれば、閉会中、ぜひ報告をいただきたかった。閉会中、課長おられませんでしたね、監査でたしかおられなかった。委員会するときにはやっぱり準備をしてください。それ、もうほかの課長さんにもお願いしますけれども、報告がないですか、ありませんということじゃ困るので、やっぱり何らかの質問もありますし、準備をしていただいてほしい。そして、介護保険に関しても、今回金額の上下はなかったという話だろうと思いますが、その辺のことも説明を一切閉会中にはいただいてないので、委員会でしっかりとまた審議をさしていただきたいと思いますが、その国保の4億6千万、どういうことなのか、ちょっと説明していただけると。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長。

○健康増進課長（高倉 伸介君） 今まで、国保の中で保険財政共同安定化事業というものがございまして、これはどういうものかと申しますと、大分県全部の市町村が共同で保険料の保険にかかった費用の59%をその共同事業から支出するという事業です。これが、今年度まで、レセプト1件30万以上というのが対象となっておったんですが、来年度からレセプト1件1円以上ということで、全てのレセプトが共同事業の中に振り込まれるということになります。何で共同事業をするかといいますと、急激な医療費の増減に対応するために拠出金を持ち合って、59%ぐらいの間の中ではその拠出金の中でやっぺいこうということになっております。その拠出金がふえたということではありますが、その拠出金がふえるということは、また戻ってくる収入も同額見込まれることですので、共同事業をすることによって、共同事業が1件30万円以上のレセプトから1件1円以上のレセプトに変わったことによって、そのパイが大きくなったと、規模が大きくなったために、負担金がふえた。負担金がふえた分、戻ってくる金額も同額ふえて戻ってくるということで、予算規模は大きくなっておりますが、内容的にはほとんど変わってないということでございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） 突発的なことということであるのか、4億6千万、これからそのふえた金額で推移していくということなんですか。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長。

○健康増進課長（高倉 伸介君） これから、そのまま推移していくと思います。来年度以降もそういうことになろうかと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） 詳しくは、また委員会で説明をいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

それでは、どんどん時間がなくなってくるので、そういうことで、財政と絡めた部分での給食センターの建てかえということになるんですが、先ほど少し教育長のほうから答弁がありました。

まず、これまでの経緯と今後の方向性ということでお話を聞く前に、現在の給食センター、学校給食衛生管理基準そして大量調理施設衛生管理マニュアルに定める基準を現在の施設、クリアをしているのかということ、またあの建物、昭和43年に建設されまして、59年に改築後30年を経過しているということ。耐震基準をクリアしているのか、この3点について先にお伺いしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長、宇都宮敏樹君。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 森議員の御質問にお答えいたします。

まず、耐震基準のほうでございますけれども、昭和59年に建築されたものでありますので、耐震のほうについてはクリアをしているというふうに考えております。

衛生管理基準のほうでございますけれども、現在、給食施設につきましてはドライシステムというふうなところで、乾いた状態での施設が望まれております。日出町の施設では、ドライシステムといいましても水をどうしても使いますので、こぼれますけれども、準ドライシステムというような形で、なるべく水をこぼさないようにということで努力しておりますけれども、完全なドライにはなっておりませんので、一応ドライを目標に現在進めているところではございますので、衛生管理基準に適合しているかという部分につきましては、施設の中でどうしても施設の構造上でできない部分もありますし、中でクリアしている、努力すればできるというところにつきましては、クリアしてるといふふうに考えております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） 教育長、今の答弁でいいですか。

○議長（熊谷 健作君） 教育長、挙手をして。

○教育長（西野 智行君） 済いません。

○議長（熊谷 健作君） 教育長。

○教育長（西野 智行君） 今、教育総務課長がお答えしたとおりであります。

ただ、若干、衛生面で、センターのほうもごらんいただいたところでもありますけれども、作業工程でどうしても狭いというのもございます。そういう面では、衛生に係るそういった作業手順の

ところで非常に厳しいところはあるのかなというふうに認識しております。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） これ、3つの基準、クリアしてますか。耐震基準、大丈夫ですか。教育長、大丈夫ですか。管理基準と管理マニュアルについては、クリアしてないということではないんですか。耐震基準はクリアしてるんですね。

○議長（熊谷 健作君） 教育長。

○教育長（西野 智行君） 耐震基準につきましては、建築基準法の中で、昭和55年以前の建物については今の現行の建築基準法からすると基準をクリアしてないということになります。これは、当然改正があったからであります。今の昭和59年という建築年でございますから、当然それに従って建築されてるものと認識しております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） 59年、改築ですよ。完全に立て直したわけじゃないんです。大丈夫ですか、その答弁で大丈夫ですか。

耐震基準の調査しませんか。それが、例えば教育委員会の中で話が出てないのか。教育部局の中で、耐震をしなきゃいけないんじゃないかというような話は出たことはありませんか。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 学校施設いろいろありますけども、給食センターの建物につきましては、59年建築ということでありましたので、耐震の補強というのは56年の建築基準法改正後の基準で、59年でありますので、建てられておりますので、当初そういうふうな耐震基準の対象とはしてなかったというふうに考えております。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） 耐震基準はクリアをしているということではないですか。わかりました。

それでは、この給食センターの建てかえについては、もう何年になりますか、ずっとお話を、委員会でもそうですし一般質問でもしてまいりました。昨年教育委員の皆さんとの意見交換会の折にもお話をさせていただいて、場所の選定からまずすべきじゃないかというようなお話をさせていただきながら、9月の定例会では、教育長に12月には方向を出してくれというお話をさせていただきましたが、前定例会で、素案ですけど教育振興計画いただきましたが、これには一切そのことには触れてないんです。これが27年度から29年度の計画なので、29年度までは一切その協議をしないということなのか。

また、整備計画検討委員会っていうのがありましたよね。名だたる方々がお名前を連ねており

ます。この検討委員会、現在どうなっているのか。教育長または町長のほうに答申が出されたのか。今全く活動していないんですか、お聞きします。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 検討委員会の件でございますけども、平成23年度に検討委員会をつくりまして検討して、平成24年の結果をもちまして教育委員会に報告しておりますけども、その後、検討委員会につきましては開催をしておりません。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） これ、教育長、なぜですか。

○議長（熊谷 健作君） 教育長。

○教育長（西野 智行君） 23年度にこの検討委員会が立ち上がってるというふうにお聞きをしております。これについて、ある程度の内容をもった形で検討がなされてるようであります。これは私も見ておりますけども、その中で、まだ検討すべきところもございます。そういった中で、テキサスの跡地の利用問題も、工場跡地の利用問題も出てまいりました。その関係で、いち早く、学校給食センターの建てかえというわけじゃありませんが、移転ということから、そちらのほうの検討に入らしていただきました。

これについては、昨日の質問の中でも出てまいりましたが、結果的には新築と変わらないというような結果になりました。これは、耐震構造等の部分もあって、あるいは中の施設面でどうしても多くの手を入れないといけないという事情がありました。その後、新たな土地取得というのも考える必要があろうかと思うんですが、財政事情等を勘案すれば、今のテキサスの駐車場、これについて一つ町有地になっております。そこでの建てかえを検討すべきかなという思いがあって、今の商工サイドでの企業誘致の推移を少し見守っていくのが必要なかなということで、内部的には事務上の議論はしてまいりました。これが今の現状でございます。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） ちょっとよくわからないんですが、整備計画検討委員会の結論結果、答申については少し問題があると、課題があるから、それから先もう検討委員会を開催しないで、これはもう解散してるんですか。テキサスのことあるいはそのテキサスの駐車場ということについては、内部検討とおっしゃいましたが、どういう場所で、これ財政も絡んで話をしたりしてるんですか。例えば、27年度に予算計上できないからじゃあ何年後にとというようなその長期計画の中に入れ込むとかいう話を1回でも財政としたことがあるのか。まず、どういう場でどういう会議をして、そういう答弁になったんでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 教育長。

○教育長（西野 智行君） 今回の検討委員会でありますけれども、これについては24年8月3日に、当時の委員長宛てに検討委員会の委員長から報告をいただいているという状況でございます。その後の検討につきましては、私が就任してからテキサスの問題が立ち上がりましたので、そちらのほうでの検討に入ろうということにしたわけでございます。

それと、内部的な検討につきましては、正式に委員会を立ち上げてとか検討会を立ち上げてとかいうことではなくて、個別の事務の中でそういう問題点等についての話し合いをしたということでございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） ほんとに話してますか。9月に何らかの方向を出してくださいと、委員会で正式にお願いしてあるんです。これは、もううちの委員会、委員みんな知ってます。委員長発言でこれはお願いしてることであります。

その後提出された、先ほど申し上げました振興計画には、29年度まではということで、一言でもあれば私も納得するんですけども、全くそのことに触れてないんです。これ、財政が厳しいから、議論のテーブルにも上げられないということですか。

○議長（熊谷 健作君） 教育長。

○教育長（西野 智行君） 教育振興計画の中では、直接的には記述をしておりますが、更新という形の中で表現をさせていただきました。あえて直接的にしなかったのは、先ほど冒頭で意見を聞かれましたけども、大変厳しいところがあると。

実は、今、教育委員会で抱えている箱物については、それ以外に図書館それから文化ホール、これについて要望がございます。私も、給食センターについて一番最優先すべき課題とは思っておりますけども、どうしても図書館の関係が出てまいりました。その意味で、財政的な面で厳しいのかなということで、事務上の話し合いで、そして先ほど言いましたように、テキサスの工場跡地の活用の問題も出てまいりましたので、それとあわせて検討しようということで推移したというのが現状でございます。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） 財政課は、図書館はつくった、暘谷駅に8億5千万かかる、体育館を耐震補強をするということで、給食センターの協議については断ってるんですか。今まで話したことがありますか。

○議長（熊谷 健作君） 財政課長。

○財政課長（川野 敏治君） 現在まで給食センターの話につきましては、先ほどの検討委員会が出された報告につきましては聞いております。ただし、それ以降、例えば具体的な位置とか場所、

またその場所が決まらなければ造成費とかもろもろのほかの費用等も出てまいります、その辺につきましてはまだ具体的な話は聞いておりません。

それから、図書館の時点で給食センターのお話をどうのこうのというお話につきましては、全然、図書館とは給食センターは別個のお話でありますので、我々といたしましたら、財政全体を見詰めながら判断をさせていただきたいと考えておるところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） 整備検討委員会、再開してください。課題があるのであれば、委員会で話をしてもらってください。答申を受けてください。活動してください。

この辺のことも、先ほど、健康増進課長をちょっとやり玉に上げて申しわけなかったんですけども、閉会中、教育課長のほうからお話ありましたけれども、こういう報告をしてください。まさに、図書館の件も名前の件もそうです。閉会中にはそういう動きがあったっていうのをわかっていながら、報告が一切ないんです。

ただ、給食センターに行ったのも給食を食べにいったわけじゃないです、我々。おいしいおいしいで済んだわけじゃないんですよ。今、民間委託になって、委託会社の部屋も要る、休憩室も要る、事務室も要る、ほんとにもうあそこ手狭です。調理場の入り口、入って、ドア開いて、靴箱があって、開きドアがあって、すぐ調理場です。民間だったら考えられないです。よくあいうところで委託業者がやってると思います。恐らく、安心安全なのを一生懸命あの施設なりにつくってると思うんです。僕もびっくりしました。委託になって初めて伺いましたけれども。あれでマニュアルや基準をクリアしてると言えますか。まさに、靴箱のドアあけた中はもう調理場です。あそこで、改めて施設の説明を受けてもしようがなかったんです、別に。

こういう状況だから、我々委員会は一生懸命提案をしてるわけです。ぜひ、検討を再開してください。これ、来年つくれ、再来年つくれっていう話じゃないんです。しっかり計画を立てて、財政とも話をしながら、恐らく2年、3年かかるでしょうけれども、そのうちに財源を確保しながらどういうものにするというのをつくっていく準備。やっぱりほかの自治体も建設するには5年ぐらいかかるとるんです。始めてから5年かかっている。もう5年ほど前から私もずっと話してるんですけども。

大きな箱物と言えば、もう給食センター、役場の旧庁舎耐震、それから公民館、もうこの3つぐらいでしょう、大きなものは。今年度、体育館をつけていただきました。そのほか、いろんな形で、エアコンであるとか小中学校のトイレであるとか、いろいろ予算つけていただいていることは大変ありがたいと思っております。ただ、もう残りあと3つの箱物、これを10億以上のお金かけてやったとしても、先ほど指摘した財政の指標が、例えば将来負担比率が350になるとかいうことはないんです。絶対あり得ない。それは、もう財政課長の手腕にかかっているんですけども、

最低限そこまでをやらないといけないというふうに思ってます。ぜひ、教育委員会でもしっかりと議論をしてください。教育委員会、どういう話を毎回委員会開いてしてるかわかりませんが、ぜひ議題に上げて、計画を立てて、5年後なら5年計画でやるというようなことをしないと、耐震基準もクリアしてるだろうという話ですけれども、これほんとに震度6強なんか地震が来れば、一番先倒れます。今の体育館より先に倒れます。そのことをしっかりお願いをしたいと思います。

町長、ちょっと所感をお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 町長、工藤義見君。

○町長（工藤 義見君） 森議員から御質問いただいております。町の財政を含めて、大変厳しい状況ではございますが、25年も何とかつつがなく議会の皆さん方の御了承いただいて決算ができて、これは昨年御報告さしていただいておりますが、26年度のこの状況を見ましても、今言われましたように若干大き目、補正予算等も入っておりますが、あるいは地方創生の予算等も入っておりますが、大きい規模になっております。今まで、私もここ10年ほどの間にいろんな事業を手がけてまいりまして、今、議員の御指摘がありましたように、大神の小学校の改築、新築あるいは豊岡小学校あるいは日出中学校の耐震強化、藤原、川崎、それぞれ地域の全部、遅くなっておりますが、一応、完了したわけでありまして。

いよいよ庁舎の問題、あるいは体育館の問題、あるいはまさに言われるように、給食センターの問題がございます。これも、できるだけ早く解決していかなくやならんと思っておりますが、基本的には、さっき課長が申し上げた、基金の減少問題、あるいは将来負担比率が非常に心配になるという点はありません、今、ここできちっとやっておかなければならないものは、しっかりやっていくという基本方針を持っております。

多少、時期的に無理があっても、将来を見越して、許容範囲内で積極的に予算を組んでいくと、こういう方向で、そしてまた、従前からプライマリーバランスはどうするんだというようなお話がありましたが、そういうことを若干壊してでも、やるべきことはやっております、こういうふうに申し上げておるわけでございます。

ぜひ今、議員御指摘の点についても十分理解ができます。もう既に、前から湯布院地域の学校給食も、相当前に視察された実績があります。私も、あちこち見ておりますので、十分、その今の御発言をここにとめて、全体の中でできるだけきちっとした計画ができるように、今後とも努力させていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） これまで、的山荘の購入であるとか、湯谷駅の8億強の事業費、図書館についても11億、12億近いお金が出て、それぞれ私は賛成してまいりました。町の発

展のためには、住民福祉のためには必要であると判断したからこそ手を挙げているんですね。

それをしたから、こっちがだめですよという話では困る。これ、逆に先ほど申し上げましたように、3年、来年、2年後とかいう話じゃないんですよ。しっかり5年間なら5年間で計画を立ててやってください。

もう、これ、何回言うんかわかりません、教育長。答弁を、やるやらない、しっかりやるというふうに言っていただけると、質問終わります。

○議長（熊谷 健作君） 教育長。

○教育長（西野 智行君） 今、森議員の町政全般、そして教育委員会の行政についても、大変御心配をいただきながらの建設的な御意見だと考えております。真摯に受けとめさせていただきたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） 真摯に受けとめるってどういうことですか。やりますと言ってくださいよ。

○議長（熊谷 健作君） 教育長。

○教育長（西野 智行君） 先ほどの調査検討委員会の委員構成は別にいたしましても、これまでの検討結果を踏まえて、町内での検討委員会を立ち上げ、早急に土地取得も含めたところでのあらゆる角度からの検討をしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） 先ほど、町長からも力強い言葉をいただきまして、これ、本当は、先ほど何回も言いますが、来年つくれというわけじゃないんですよ。準備にはそれなりの期間がかかるんで、そのうちにその裏を、財源を確保するようなことは、やっぱりすればいいわけですよ。

この、先ほど冒頭申し上げました17年ですか、17年、行革始めた後の8年間、教育長、いらっしゃらなかったでしょうけれども、17年間の4年間というのは、職員の皆さんも辛抱してもらって、議員も削減をして、職員の給与も削減して、一生懸命ためた、今現在、22億の基金なんですよね。

全部見直しをして、事業もストップして70億の当初予算で辛抱した。今、102億、考えられないですけども、70億の予算でやったことがあるんですよ。

そうやって、ためたというのは、今、やるべきことをやりたいがために、私は、そういう気持ちでいるんです。今なら計画してやっていけるという気持ちがありますんで、ぜひよそに置かないで、教育長、先導を切ってやってください、教育委員会の中でも。5年計画ぐらいでやってく

ださい。

もう時間が3分しかないので、次の質問も大変重要な問題なんですけれども、南端小中学校、もう限られた時間ですけれども、ちょっと答弁いただきたいと思います。今までの取り組み、運営について、敢えて運営という言葉を使わせていただきますけれども、運営と今後の方針についてお聞きします。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 森議員の御質問にお答えをいたします。

南端小中学校の運営につきましては、これまでの取り組みと今後の方針との御質問ですが、ここ数年、地元の子供の就学を希望する児童生徒がいないことから、地元の区長さんから、学校評議員さんとの意見交換を行う中で、地元の方々によって、子供を持つ保護者へ、学校への就学の声かけなどをこれまで行ってきたところでございます。

さらに、就学希望がないことで、地元の方からアンケートをとるといふことの要望がありまして、子供を持つ保護者や独身者へアンケートも実施したところでございます。

そのアンケートの結果に基づきまして、地元の方々と協議を行ったところでございますけれども、以上のこととアンケートの結果を踏まえて、先生の数が不足しまして、教科の専門性が不十分になるため教育水準の確保ができにくい。それから、少人数であり集団生活による学校教育ができない。それから、不登校児童生徒が就学を希望しても、安定した児童生徒の数の確保が困難であるという、以上3点の理由から、12月の定例の教育委員会で、平成28年4月より休校とするというふうな決定をいたしました。

今後の方針につきましては、残る2名の生徒につきましては、卒業、進級に向けて最大限の努力を、支援をまたしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（11番 森 昭人君） その件は、アンケートをとった家庭といいますか保護者に報告はしてあるんですかね。結果というか、その28年度休校と。28年度をもって終了して休校ということですか。27、28。28年4月1日から休校。

今、では、現在、生徒はどういうことやったんですかね、生徒、中学校3学年に、3年に1人、2年に1人、ちょっと状況を教えてください。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 今、南端中学校の生徒でございますけれども、3年生が2名、2年生が1名、1年生が1名、合計4名でございます。

○議長（熊谷 健作君） 11番。

○議員（１１番 森 昭人君） 来年休校ということは、その今の２年生と１年生は卒業できないということですよ。できないということですか。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 今の３年生は、今年度卒業しますので。２年生が、もう一年、中学校がありますので、２年生は卒業します。１年生が１年手前で卒業できないということになります。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） １１番。

○議員（１１番 森 昭人君） その最後の１年生、今現在、１年生である１人は、卒業したいという意思はないんですかね。それは確認しましたか。そこで３年間過ごして卒業したいという意思は、ないということを確認したんですか。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 今の１年生の方につきましては、保護者とお話をいたしまして、あと１年、お願いしたいというふうな結論でございました。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） １１番。

○議員（１１番 森 昭人君） 教育委員会でしっかり話をされたということですよ、２８年度休校、もう大変寂しいんですけども、この現実を受けとめなければならぬかなという気がいたしておりますが、また、委員会でも少し話をさせていただきたいと思っておりますけれども、地元の小中学校、深いかかわり、やっぱり地元地域ありましたんで、地元の方にもちゃんと説明をされているんですかね。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） アンケートの結果をもちまして、南端の各区のほうに御案内を差し上げまして、説明会を一応行いました。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） １１番。

○議員（１１番 森 昭人君） 済みません。恐らく委員会のときにお話をさせていただいたんでしょう。私、諸事情があってちょっと欠席をしたのでお聞きをいたしましたが、詳しい内容は、もう時間がありませんので、委員会で少し聞かせていただきたいと思います。

何にしても、歴史がある学校が休校になるというのは、休校になるというか、運営上、休校にせざるを得ない状況になってしまったというのは、ある意味、行政の責任も少しはあるのかなという気がいたしておりますんで、今後、どういうふうを活用するのか。休校である以上は廃校で

はないので、廃校に向けてという形になるのか、施設をそのまま何かに存続するのか、また、学校施設として復活ができるのか、これから、またその辺の議論が必要になってくるんじゃないかと思えます。

また、詳しくは委員会ですたいと思えます。

これで終わります。

.....

○議長（熊谷 健作君） 次に、9番、工藤健次君。

○議員（9番 工藤 健次君） 9番、工藤健次です。通告書に従って一般質問を行います。

はじめに、第4次日出町総合計画の検証について質問をいたします。

第4次総合計画は、残すところ1年余りとなり最終年度となりました。総合計画には数値目標がないので、進捗状況といったら難しい面があるかと思えますが、4年間、総合計画で政策を進めてきたわけですので、今現在の総合的な進捗状況をお聞かせください。

次からの質問は質問席で行います。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長、井川功一君。

○政策推進課長（井川 功一君） 工藤議員の御質問にお答えをさせていただきたいと思えます。

第4次総合計画は、「人と自然が調和したふれあいと活力あるまちづくり」をテーマに、平成18年度から平成27年度までの10年間を計画期間としております。

人口に対する基本指標としましては、目標人口3万人に設定し、少しでも目標達成ができるよう、各種施策を行っているところでございます。

議員が言われますように、来年度は計画期間の最終年度になります。後期基本計画の施策の中にあります40項目、この40項目の基本計画につきまして、進捗状況を把握するため各担当課の調査を行って、今、内部で内容を検討している状況でございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 検証というのは、1年に1回とか、そういう割合ではやってないんですかね。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 毎年、検証というような状況はやっておりません。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） また総合計画、5次をつくっていくと思うんですけども、今、地域創生とかそういうことになっているんで、日出町の創生本部の推進本部、この設置の規定の中にも、この総合戦略について、その実施状況の総合的な検証をもう定期的に行うという、こういう言葉が入っていますよね。その4次の総合計画というのは、もう全然、5年前に検証するとい

うふうにとっていいんですか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 地方創生の総合戦略につきましては、5年間の総合計画を立てるわけございまして、そのPDCAサイクルで検証してまいります。

総合計画につきましては、基本計画がありまして、その下に今、通常は実施計画がございます。その実施計画におきまして検証していくところでございますが、当町、ちょっと実施計画が作成をさせて、できてない状況でございます。その関係で、先ほど申しました基本計画の40項目の検証を26年度行ったところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、その計画の検証は今やった、26年でやったちゅうことですかね。

そしたら、いろいろそのやった中で、多分、進捗状況がおくれている、多分、分野・項目があると思うんですけど、その点についてお聞きをします。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 先ほど答弁させていただきましたけども、調査につきましては、チェックシートで各課にお願いをさせていただいたところでございます。

その中に中間報告、それから最終年度の総括見込みを記入してもらうような形をとっております。中間総括の中に自己評価、それから計画終了時の評価見込み、それぞれの評価理由も記入してもらっていることになっております。

27年度が最終年度でございますので、最終年度におきまして、計画どおりの成果が期待できるように、少しでも27年度の当初予算にその分を含めてもらうように、各課にお願いをしたところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 具体的に、例えば人口減のそういうところ、例えば大綱で人を大切にすまちづくりとか、自然と調和したまちづくりとか、ふれあいが広がるまちづくりとか、活力あるまちづくりとか、そういう大綱の中で、例えば人口減とか、今、問題になっていますよね。そういう部分については、政策がおくれているとかそういうあれはないですか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 先ほども申し上げましたとおり、40項目の基本計画につきましの検証でございますので、個別の事業につきましの検証でございますので、その点がちょっと詳細の検証にはできてないというのが現状でございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） では、あともう1年なんで、そういうおくられている、多分、部分が結構あるんじゃないかと思うんですけど、その部分については、27年、1年で、どういうふうにして取り組んでいくかということをお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 先ほどのチェックシートの部分で、まだ計画どおりできてないという内容につきましては、27年度の予算の中で、なるべく計画どおりになるようお願いをしたところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） そしたら、今度は、第5次の総合計画を27年度中に作成をしていくと思うんですけど、その中で、多分、課題とか、そういうことが出てくると思うんですけど、今現在、課題になっていることはどういう部分ですか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 第5次の総合計画の策定に関する部分についてお答えをさせていただきます。

策定に関する予算につきましては、平成27年度当初予算に計上させていただいておるところでございます。

また、総合計画の審議会条例、この条例につきましては、さきの12月議会で条例の改正等で議決をさせていただいております。審議委員会のメンバー、20人以内でございますが、そのメンバーの構成につきましても、今現在、検討をしている段階でございます。

策定につきましては、先ほど言いました最終の総括、それを行うことと並行いたしまして、役場庁舎内で策定委員会、それから策定専門部会、これを組織しながら、第5次の計画書を年内に策定できればというふうに考えているところでございます。

先ほどちょっと申しましたが、まち・ひと・しごと、それ、創生に関する2060年までの人口ビジョン、それから地方版の総合戦略の計画も、27年度に作成をしないといけない状況になっております。

総合戦略は、平成27年度を初年度とする5カ年計画でございますので、その5カ年計画の基本的な方向、それから具体的な施策をまとめるところがありますので、第5次総合計画と重複している部分がございます。そういうところがございますが、国のほうの指示で、総合計画と総合戦略、これを1本にすることは、なるべくしないようにという指示も来ておりますので、別々には作成をさせていただきたいというふうには思っています。

その2つの計画書を27年度につくらないといけませんので、相互の計画書をどのように連携して作成していくことができるのか、今後の課題ではないかなというふうに、今のところ考えて

いるとでございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） では、メンバーもほとんどその総合戦略のメンバーと全く一緒のような形になりますか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 策定委員会というのは、地方創生の総合戦略のメンバーとほぼ一緒でございまして、各課長等が委員会の委員になります。

それから、専門部会という部会がございます。この部会につきましては、10年前の部会をつくったときには、4つの専門部会に構成をさせていただいているとございますが、今のところまだ、専門部会の構成はできておりませんが、今回も4つの部会で構成をしたいというふうには、今のところ考えているとございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） ずっと、この総合計画を読んでいくと、もうこれをずっと5年間、このとおり実行していくと、すばらしい町に発展していくと思っているんですけど、なかなか言葉だけとかそういうことになっていくんですね。実行性の伴う今度は5次の日出町総合計画と、さっき言ったように、地方創生で入ってくる総合戦略、これについて同じようなことになると思うんですけども、しっかり計画をつくって、実行を伴うようにしっかりやっていただきたいと思うんですけど、もう一度、その点について答弁をいただきたい。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 地方版の総合戦略につきましても、地方の特色あふれる部分をつくりなさいということとなっておりますので、当然、日出町の特色ある地方総合戦略になろうかなと思います。

また、第5次総合計画につきましても、次の10年間の日出町の姿を出すわけですので、日出町の特色あるまた総合計画に、なろうかなというふうに思っているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 今、特色あるということが何回も出てきたんですけど、ずっと私も議員になって、もう5年ですかね。5年、いろいろ質問してきたんですけど、なかなか日出町の特色あるという、その部分がなかなか今までの政策の中で、周辺自治体とか、そういうとこに比べて少ない部分が見受けられるんですけど、その点についてどういうふうにお考えですかね。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 今の高校跡地の周辺の整備事業におきましても、国東半島の根元の中核を担う都市づくりをしておりますので、その点につきましても、日出町の特色あるまち

づくりではなかろうかなという判断をしております。

○議長（熊谷 健作君） 9 番。

○議員（9 番 工藤 健次君） 町長、今の点についてどういうふうにお考えですかね。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 工藤議員の御質問にお答えしたいと思いますが、非常に特色あるということとは難しいんでありますが、私は、日出町のこの102億の予算がございまして、全て日出町の特色を生かして事業をやっているというつもりであります。皆さんの十分な目にとまってないという点が多々あると思いますが、いろんな施策は、全て私は日出町のため、日出町の将来のため、そしてまた日出町が自慢に思って、また誇りに思うまちづくりとして、他に誇れるようなそういうことを願って、今、全ての予算を考えております。

ただ、その場合、私はもうここ数年間にわたって言っておりますが、今回の予算についても、例えば人口に例えれば、毎月毎月、何人になったというだけではだめだと。ここ3年、5年の傾向として減っているよと。出生がこうなっていると。だから、少なくとももとに戻すためには、何人ぐらいふやさんといかんとか。あるいは亡くなっている人が多いとか、あるいは社会増、あるいは自然社会増減額であります、きょうの新聞にも載っておりましたが、そういうものだから、さらにするために、どういうふうに人口がふやす、そのためには、環境の整備が必要であるとか、あるいはもう少し空き家だとか宅地を造成するとか、いろんな環境の整備をして、道を、いろんなことをよくしていくと。そういう具体的な課題と目標を掲げて、事業と予算をしてください。

その結果、きのうもここで御発言がありました。プラン・ドゥ・C・A、プラン、実施・つくり、それから実施してそしてチェックをして、その後は、そのチェック、反省の上に立って、さらに次の行動を起こすと、そういうことを繰り返しじゃないと、ただ、事業を前例踏襲という形でやるというだけでは、もうだめじゃないかと。そういうことは、もう徹底して今、課長会議でも、予算の中でも、財政課においても、そういう理論をする中で、予算編成をさせていただいているわけです。

ですから、やはり目的意識を持って、あるいはその成果はさっき御発言ありましたが、成果はやはりなかなか総合計画の中に具体的な実施状況を盛り込むというのは、非常に難しいんでありますが、それでも、この検証はしないといけないと。

その中で、予算の中に、人づくりであります、予算の項目の中に人を育てるとか、あるいは守っていくとか、そういう項目をちゃんと掲げながら、その中に予算編成をしている、こういうことであります。

今後とも、この方向については変わりありません。ただ、5次計画については、4次計画の反省のもとに、さらに10年であります。その10年間の計画をやはり前回も職員の手づくりで行

っております。次回も、職員挙げて、そして多くの町民の皆さん方の理解や御支援や、そしてまたいろんな御意見・要望を聞いた上で、やはりやっていくということが、私は基本だと思います。

それから、策定委員会というようなことも、今しておりますんで、そういう意味で、私どもができる限りの最大の努力をさせていただきたいと思います。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） ちょっと参考になる町があるんですけど、ここを政策推進課長、調べたことがありますか、隠岐の海士町というところを調べたことがありますか。ありますか。その取り組み、どういうふうに感じていますか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 隠岐の海士町につきましては、日本海の島の町ということで、どうしても人口につきましては、本土のほうから流入してもらわないといけないというのがあります、いろいろなまちづくりについては、移住・定住事業について、いろんな施策をされているというふうに認識をしているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 今、政策推進課長が話をしてくれましたけど、ほかに、この町について、課長で何か調べたとかそういう課長、いませんか。いないですか。

ここ、今、政策推進課長が言ったように、島根県の隠岐にある島なんですけど、60キロぐらいしかない島ですね。人口2,400なんで、ちょうど、姫島ぐらいの人口なんですけど、ここ、何もないんですね。今、ここで考えられないような、コンビニがないとか、ショッピングモールとか、そういうところは何もないんですけど。

その町長さん、取り組みがすごくよくて、今、視察が、もう押しかけているという状況なんですけど、この行財政改革、10年ぐらい前から、例えば夕張が破綻したあの時期に、何か町長になったということで、それからこっち、もう真剣に本気で取り組むということで行財政改革をやったり、それから産業の創出、こういうことをずっとやってきて、今、本当にもう視察がいっぱい来るということで。

それから、そこには20代から40代の若い人が、もう不思議と押しかけてくるっちゃんなんです。240人ぐらい、1割ぐらいの人、それから、よそから来る人がたくさん多いということで取り組み、それから教育についても、もう大学を出て大手の会社におった人が家族で引っ越してきたりとか、そういう環境になっておりますので、すごく参考になると思うんですけど、教育長、そういう何か特色のあるその教育環境についても、非常に参考になると思うんですけど、出前事業をしたりして講師を呼んだときに、その講師がそのよさを知って、そこに住むというか、

そういうこともあるんですけど、そういう取り組みは考えられないですか。

○議長（熊谷 健作君） 教育長。

○教育長（西野 智行君） 今の出前事業等々のお話でございますけども、今、私どものほうで、昨日、出ましたコミュニティースクールの中で、各地域のゲストティーチャーという形で、そういったところの話も、講師をお呼びしてやっている。

これも、地域特性に基づく人材、そういった形で御協力を願っているという今、現状でございます。

コミュニティースクールを行うことによって、そういうことが、もっと広がっていくというふうに考えております。そういう面では、特色のある学校、教育面ではそういう形で、町政全般の中での特色づくり、これに貢献できているのではないかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、皆さん、インターネットでその海士町の取り組みを見ていただいて、自分たちのそれぞれの各課の分野で何か生かされることがあるかと思っておりますので、そこはまたしっかり見ておって、これからの政策に生かしていただきたいと思っております。

次は、農業の後継者の問題についてお聞きをします。

ちょうど、私の地区の今、真那井地区は、農業法人のつくる準備をずっとしてきました。それで、その過程で、なかなか話が行ったり来たりして行き着かなかったんですけど、最後は、一応、生産組合ができるというところまでなりました。

それで、その会議の中で、いろいろ何が問題になったかということ、やはり農業の後継者。後継者といっても、作業をする人、人がこういないとそこに行き着かなかったんですけど、今、農業後継者の問題が、本当に危機的な状況にあると思っておりますので、今、どのように認識して、具体的な対策を講じていくかということ、農林水産課長に御答弁をいただきたいと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 工藤健次君の質問にお答えいたします。

農業後継者についての問題でございますけれど、今、日出町での農業後継者の問題というのは、家としての後継者はいるんですけど、農業者としての後継者が年々減少していると、そういうところで非常に厳しい状況にあると認識をしております。

具体的に数字で申し上げますと、2010年の農林業センサスでございますけれど、農業就業人口が939名でありますけれど、そのうち35歳未満の若い農業者につきましては40名ということで、割合にしますと4.3%でございます。

逆に、65歳以上の農業就業者につきましては616名ということで、これが65.6%とい

うことになっております。平均年齢にいたしますと66.9歳と、そういう状況でございまして高齢化が進んでいると。

これは、5年前の調査でございますので、今、ちょうど、新しいセンサスの調査しておりますけど、これよりもさらに減少していることが予想されると、そういう状況でありますので、大変厳しい状況と判断をしております。

農業後継者の対策でございますけれど、農業者の子弟、子供さんなりが継いでいただければ一番いいんですけど、それが今、少ない状況にある中で、農業者以外の参入者、そういう方のことが考えられます。

そういう対応といたしまして、相談窓口といたしまして、いろんな関係機関ありますけど、農林水産課のほうで窓口となって、ワンストップ窓口といいますけど、最初の営農の相談を農林水産課のほうで受けると。

それをもとにしまして、その状況を聞きながら各関係機関を集めまして、就農希望者も集めての相談会を実施していると、そういう状況でございます。

就農については、一番問題になるのは就農予定地等でありますけど、これにつきましては、日出町の中で、貸してもいいよというような土地についての情報が、まだ少ないという状況でございます。

しかし、これについては、これから先、いろいろ今、国のほうも、農地中間管理事業でありますとかいろいろな事業がありますので、そういうところで、そういう土地の貸してもいいという人についても、情報をどんどん仕入れていきたいと思っております。

また、水田農業につきましては、やはりこれから先、大規模でなければやっていけないということで、議員にも大変御尽力していただいておりますけど、集落営農を中心に、これから先、これまで軒ノ井一つしかなかったというところありますけど、今、真那井のほうも話が進んでおりますし、これから先、さらにそういうことで集落営農を進めるところで、就農者の確保を図っていききたいと、そのように考えるところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 先ほども話をしたんですけど、ずっと話を皆さんとしていく中で、もうぎりぎりの状態にこうきて、そういう集団化の話とかすると、もうなかなか進まないんですね。早い時期に、もうあと2年、3年先、どうなるのかなという、みんな心配はしていると思うんですけど、そういう中で行政としても、やはり認識はしているのはよくわかるし、それから対策もということなんですけど、もっと現場の農業者、困っているその状況をよう状況把握というんですか、情報をたくさん仕入れて、やはり農業者のしっかり声を政策に生かしていただきたいと思うんですけど、今、一番困っているのはやはり人なんで、その人をインターネットで調べる

と、それはもう外国から入れたらそれはいいとか、いろんなそのあれがあると思うんですけど、町としても、もっともっと町内でなければよそから来てもらうとか、そういうことは考えられないですか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 地元の意見を聞くというのが一つありましたけれど、毎年、水田農業につきましては、3月、うちにつきましても、来週から各地域に出かけまして、制度の説明会をする中で、いろんな意見なりそういうものをお聞きするようにしておりますので、そういう中でも、またいろいろ意見を吸い上げながら、参考にしていきたいと思っておりますし、現在、人・農地プランということで、各集落に出かけまして皆さんに集まっていただいて、また5年後、10年後のそれぞれの集落の計画をつくりましょうということで、推進をしているところでございます。

現在のところ、7集落でプランできておりますけど、なかなか地元理解されない部分もあるんですけど、これからも根気強く積極的に地元に出かけていながら、いろんな意見を聞きながら、どうやって後継者をつくっていくのか、地元がいなければ、議員おっしゃいますように、よそから入ってきて担っていただくと、そういうことも視野に入れながら、積極的に進めていきたいと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 非常に難しい問題なんですけども、その点は、もうしっかりやっていただきたいと思えます。

次は、担い手の確保とか育成とか、農業技術の継承とか、農業経営の安定化とか、こういうところが、農業をやっていく上では非常に重要なんですけども、その分野については、どういうふうに考えて取り組みをしていく考えですかね。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 担い手につきましては、まず認定農業者制度というのがございます。5年後の自分の営農についてのよくなるような計画を立てていただきまして、それについて日出町として認めた方を認定農業者としております。

そういう認定農業者になりますと、いろんな補助事業や制度資金が受けられるとかいうメリットがございますので、いろいろ要件はございますけれど、そういう認定農業者になるように、こちらからも誘導していきたいと、そのように考えるところでございます。

また、農業技術につきましては、基本的には親から子へつないでいくのが理想でございますけれど、先ほど言いましたように、農家の子供が継がない状況においては、やはりよそから新たに新規参入したいという方もございます。そういう方につきましては、技術が伴わなくて営農に入

ってしまいますとやはり失敗する可能性がございますので、今、県の農業大学校でありますとか、いろんな農家でありますとか、やっぱり事前研修を行っていただきながら、その後に営農に入っただくと、そういうような形に持っていければいいと思っているところでございます。また、指導につきましては農協でありますとか県の指導機関がございますので、その辺とタイアップしながらやっていきたいなとそのように思っているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 前も多分同僚議員が質問して出たと思うんですけど、技術の継承とか、今、杵築が、多分農業学校か、そういうやっぱり学校のような形をつくって技術の継承とかそういうことをしていったら、町としても、やはり今であれば年配の方も技術的な指導ができる、こういう状況になってますので、できるだけそういう部分も検討していただきたいと思うんですけど、この点についてはどう考えますか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 就農研修につきましては、就農学校と言いますが、今おっしゃいましたように、杵築市のほうでイチゴ、それから国東市のほうで小ネギとか、ほかにもやるところがありますけれど、大変いい制度だと思ってるのは確かでございます。

ただし、これを実施するに当たっての問題点は、問題点といいますか課題でございますけれど、これにつきましては、やはり研修が終わった後に就農する土地というものの確保が必要でございます。そういう点で、うちのほうとしましては、まだ残念ながらその確保ができていない状況がございますので、これから先、やはりそういう土地を確保するように努力いたしまして、できるものでありましたら取り組んでいくようにしていきたいとそのように考えているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 多分、土地の確保はもう探せばいっぱい出てくると思うんです。もう今はほんとに、先ほど言ったようにもう限界状態に来てますので、つくる人が。何日か前も、農協の稲作部会長に会う機会があってちょっと話をしたら、もうあと3年ぐらいがもう限界やというような話をしましたので、多分これからもうどんどん耕作放棄地とつくる人がいなくなったら手放すしかないんで、手放すともう荒れていくという、こういう多分また状況が起きてくるのが目に見えている状況になってると思いますので、できるだけ早目に行動を起こしていただいて、日出の田んぼを守るといことは、その集落とかそういう環境も守っていくことにつながっていくので、しっかりこの点は取り組んでいただきたいと思います。

最後の質問になりました。次は、パークゴルフ場の建設についてということで質問をいたします。

平成25年の9月議会で陳情を採択したパークゴルフ場の建設について、これまでの経過をお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 御質問にお答えいたします。

パークゴルフ場の建設に係るこれまでの経過についてでございます。陳情が出ましてから、私ども都市建設課のほうでこの陳情案件につきましていろいろ調査をしましてまいりました。ただ、パークゴルフ場につきましては、私ども都市建設課の職員誰一人として経験した者がございませんで、今ひとつパークゴルフというものについて、魅力それからどのような効果にあるのか、プレーはどうしたらいいのかということが全くわかりませんでしたので、陳情にありました日出町パークゴルフ協会の会長さんに御案内をさせていただきまして、昨年春に都市建設課の職員、中に私も入りまして、宇佐市の家族旅行村の安心院パークゴルフ場、それと杵築市に山香町の風の郷パークゴルフ場の2カ所の公認施設を視察をさせていただきました。

その中で、ゴルフのプレーを私どもも一緒にさせていただきまして、魅力はどういうものなのか、それからどういう方がやってるのかということをお話をじっくり聞かさせていただきまして、その中で私ども職員4名が、生涯スポーツとして広く注目され、認知されていることを強く感じた次第でございます。

しかしながら、町内の愛好者にとっては身近に施設が日出町にはございません。ということで、パークゴルフ場を日出町にもつくるべきだということ強く考えまして、昨年、どの程度の規模なのか、整備はどうすればいいのか、たまたま隣町の別府市で建設中のパークゴルフ場がございましたので、県等にお問い合わせして経費等も調べてきたところでございます。その中で一番の問題点が、どこの候補地にするのかということでございました。新たに土地を求めるには経費がかかりますし、既存の用地を利用するということも含めまして、整備内容や候補地の検討を行ってきて今現在に至ってるところでございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 経過はわかったんですけど、それでは、今予定地とかそういうところは全く白紙の状態ですか。それとも、もう、当初から糸ヶ浜の公園とかの部分という話が多分出てきたと思うんですけど、その点についてはどうなってますか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 当初、真那井周辺の山地等も広く検討した経緯がございます。その中で、新たに土地を求めるには苦しいということで、糸ヶ浜の公園の中の一部を昨年伐採等して候補地として何ホールできるのかということまでは検討しております。今現在、一部分、

9ホールぐらいできないかということで、今年度その調査費と、一部分絵を描いたり、できるのであればそこを9ホールつくりたいなというふうに思っているとこは事実でございます。

ただ、それにつきましては、今現在あくまでも候補地でございます。そして、平成27年度中にもしそこが有効であれば、そのまま継続して事業が進められればなというふうに思っているとこでございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 概算で予算とか規模とかそういうところは出した経緯ありますか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 今現在、糸ヶ浜の一部分、9ホールにつきましては、地形的に大変よろしいものですから、余り経費はかからないということで予算化できないかということで、もう調査費用それから一部分の経費については上げております。

ただ、パークゴルフ場の皆さんとお話した中で、どうしても公認のパークゴルフ場が欲しい、もしくは18ホール欲しい、中には27ホール欲しいと言う方もいらっしゃるしまして、全ての要望を飲むにはかなりの金額がかかるというふうに考えております。ですので、今回は9ホール部分の分についてだけ、とにかくかかって、事業にとにかくかかりたいというふうに今考えているとこでございます。18ホールにつきましては、別府市などの用地を買収してやると4億、用地を買収しないで地形的に恵まれてれば1億程度という話も聞いておるんですが、私ども糸ヶ浜についてはまだ概算等なかなかはじけないのが現状でございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） せっかくだらば、やはり公認のコースにして、大会ができるような施設が望ましいと思うんですけども、健康づくりとか、先ほど話しに出てたように、医療費とかそういうことの増大を考えれば、健康づくりにも役立つし、それからスポーツの振興、それから交流人口もふえてくるんですけども、ここは町長どういうふうに考えてますか。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 私も、皆さん方と接触しております。パークゴルフ協会の皆さん方がいつも私のところに来て、早くつくろうって。私が言うのは、手づくりでもいいからまず着手すること、それが私の基本的な考えです。担当は、計画を立てたり設計したり測量したりと、いつのことかわからないんでだめだと、私はこれはっきり申し上げております。まず、事業を実施して、皆さんも自分たちでかなり手伝って手づくりすると、こう言っているわけです。ですから、その手づくりにどこまでできるかは別にして、まずやってみて、そしてだんだん3年、5年たつうちに広げていきながら、ちゃんとした、今言うような認定されるようなパークゴルフ場をつくっ

ていくというには、最初から夢みたいなことと言ってもしょうがない。

なぜ、私がそういうふうに申しますかといいますと、やはりパークゴルフは一つのスポーツであります。そして健康づくりであります。いろいろ介護だとか、きょうも国保の経費のことについてお話がございましたが、多くの皆さんが、介護とかそういうサービスに行かないで、非常に走り回ってますが、健康状態になりまして、非常に介護そのほかの必要のない人たちも相当出てきているわけです。そういうことを考えると、一つのスポーツと連携、友好、交流を深める意味でも、そしてまた皆さん方が健康になっていくためにも、一日も早くこの事業は実施するように、きちっとしたパークゴルフでありますから、芝生を敷き詰めてちゃんとするのはそれですが、ある程度できておれば、皆さんが手づくりで、加勢してやりたいとこう言ってるわけですから、今の予算はそういう意味からですと、私は年度中に早く形だけでもつくり上げるようにと、こういうふうに言っております。

課長とか担当の皆さん方はきちっとした計画書に基づいてやりたいと、それは十分わかるんでありますが、特に糸ヶ浜の海浜公園周辺でありますと、土地がもう既にあるんであります。計画をすれば18ホールであるとか場合によっては27ホールも可能です。当面は、今さっき課長言いましたように9ホールであります。駐車場があります。トイレがあります。そして、いろんな周辺には食事したり、温泉に入ったりするところもある。まさに日出町の観光宣伝、誘客のためにも大変貴重なとこだ。一日も早く、そして温暖でありますから、非常に多くの皆さんが日出町に出てくる可能性があります。周辺、たくさん皆さんが期待しておるわけで、日出だったら行きますよという方々は多いということではありますが、これはもうできるだけ早く調整をしながら、多くの皆さん方の力をかりながら、早い時期での実現を目指したいと思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、今、町長もできるだけ早くつくりたいということなんで、今、多分競技人口は少ないかもしれないんですけど、町内に施設がないからよそに行って、なかなか人口がふえていかないと思うんですけども、町内に施設ができれば、よそに行っている人、今度は、よそからこっちに入ってくると、こういう形になって、周辺も、町長言ったように環境が整ってますので、ぜひ早目にこうしていただきたいと思うんですけども、課長、早く工事にかかるとしたらいつぐらいになりそうですか。そこぐらいまでお示してください。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 新年度になりましてから、今回予算を一応調査及び一部分の工事費を上げておりますので、新年度からできたらというふうに思っております。

27年度からできたらというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） いや、新年度、そこまで把握したんですけども、その状況の中で、例えば工事が上期のほうの6月とか7月とか、最短で努力すればいつぐらいからかかれますよ、あと予想なんで、大体どこら辺からできますということ。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 今の予算ですと、かかりますと、夏ぐらいまでにはある程度の形をつくりたいとは思ってるんですけども、何分、まだ工事の手法等、どのようにやれば一番経費のかからない方法ができるのかというまだ検討も含めて今現在やっておりますので、またその工事の手法等が明確になりましたら、またお知らせしたいというふうに思っております。まだ、パークゴルフ場のただ単に土木工事というふうには感じておりません。経費を安くするというのも含めまして、ゴルフ協会の方の協力とか、それから計画書を委託するのか、もしくは協会さんと一緒になって職員がコースの絵を描くとか、そういうふうなのを含めまして今現在やっておりますので、その手法ができましたら明確な時期等がはっきりするというふうに思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、町長言われたように、関係者の人も協力体制があるということなんで、できるだけ経費も抑えて、協力もいただいて、9ホールになるということなんで、一時的にはそういうコースをつくって、次の2次工事はまた周辺をできるだけまた手に入れるような方法をとって、公認のコースにしっかりしていただきたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

.....

○議長（熊谷 健作君） 次に、3番、上野満君。

○議員（3番 上野 満君） 3番、上野です。一般質問を行います。

日本T I 日出工場跡地についての質問の予定でしたが、きのう2人の議員から同様な質問が出ましたので、その答弁について質問いたします。

まず、きのう、企業誘致の期限は特に定めていないとのことでしたが、これについて理由があればお聞かせください。

次の質問からは、質問席で行います。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長、河野晋一君。

○商工観光課長（河野 晋一君） 上野議員の質問にお答えします。

昨日、企業誘致の期限ということで、定めてないという答弁をいたしましたけども、今、15社について協議を行っておりますが、こちらのほうの受け入れ態勢と準備ありますけども、

相手方のタイミング等もありますので、今現在、もうすぐことしの夏ぐらいまでに入居したいというような希望のともありますが、ある程度そういう相手方の事業の進捗状況、27年度中にそういう判断ができるのかという企業等もありますので、そういう中で、やっぱりなかなか期限というのは今の段階でははっきりしたものは設けにくいというような状況ではありますが、そういう中でなるべく早く、きのうも申しましたけども、成立に向けて努力したいというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） 地方創生の戦略の一つとして企業の地方移転の促進がありますが、これによりT I跡地に新たに移転を希望するような企業があらわれるか、期待していますか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 地方創生の中で、東京とか大都市に集中してる企業の本社機能等を地方に移転させるというようなことで、税の優遇制度とか地方創生から見て行っていくというようなことでありますので、そういう制度にのっとった形で企業がそういう選択をしていただければというふうに期待はいたしております。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） 次の質問ですけど、事務棟と工場の電気系統を切り離し、事務棟単独で運営するとのことですが、これについても何か理由はありますか。

○議長（熊谷 健作君） 財政課長、川野敏治君。

○財政課長（川野 敏治君） ただいまの御質問ですが、御存じのように工場棟のほうは、ただいま不要物ですか、中の整理を行っております。これが、西棟、南棟それから北棟については今年度でおおむねめどがつきそうな気がしてるんですが、東棟についてはいろいろ輻輳しております、ちょっと時間がかかりそうに今思っております。

そういうことで、工場棟のほうは使えるような状態になるのに、もうちょっとしばらく時間がかかる気配があります。それに比べまして、事務所棟のほうは単独した建物でございますので、水道それから電気そういう設備を引けばすぐにでも使えるような建物になっております。そういうことで、我々としたら、少しでも早く使えるような形にできればということで、事務所棟のほうについては別途に新たにそういう施設を準備いたしまして、早く貸し出しできるような状態に持っていくということでやった次第でございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） ということは、工場棟だけでなく、事務所棟だけを貸し出してほしいとかいう企業もあるということですか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 基本的には、工場棟のほうが製造業ですので多いのですが、製造業の中でも事務所棟が使いやすいというような企業もございます。ただし、その企業についてはちょっと相手方の事業の進捗状況でなかなか今の時点では判断ができなくて、ちょっと27年度中に判断したいというような企業もございます。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） 事務所棟のほうに役場の一部を移転させるとかいう話が前出たかと思うんですが、その件はどうなりましたか。

○議長（熊谷 健作君） 財政課長。

○財政課長（川野 敏治君） 内部的にはそういうことも確かに検討をさせていただきましたが、現状ではやはり企業誘致のほうを優先して考えていきたいなということで、現状ではちょっとそういうことはまだ進んではおりません。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） この工場跡地の利活用、これは日出町版総合戦略を策定するに当たり、雇用創出の面から見てもこの利活用は重要な事業だと思いますが、町長はどう考えてますか。

○議長（熊谷 健作君） 町長、工藤義見君。

○町長（工藤 義見君） 議員のおっしゃるとおりであります。私は、日出町の再生、発展の拠点にできないかと、それがもう希望であります。そういう意味からすると、やっぱりそこで町と自信持って活用していただいて、ここに雇用があって、その職場が地域に誇れるような、そしてまた皆さんが注目していただいて、町の発展に貢献するように、そういうことを願っております。そういう意味から、議員言われるとおりの方向づけで今後とも頑張ってまいりたいと思います。以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） きのうの2人の議員も言われたとおり、やっぱり年間に1,900万の維持費がかかることは日出町にとって大きな課題の一つですので、早急に解決していただきたいと思います。

また、耐震調査結果がまだ出ていないということでしたので、結果が出次第、報告をお願いします。

では、次の質問に移ります。

ここ数年、年間30万人前後の外国人観光客が訪れていますが、日出町にはどれくらいの外国人観光客が訪れていますか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 日出町に訪れております外国人観光客数ですが、ここ三、四年を見ますと、平成22年が6万3千ぐらい、平成23年が約3万1千、平成24年が約7万、そして平成25年が7万8,233ということで、その平成25年の内訳ですが、韓国からが約4万人ぐらい、そしてあと中国と台湾とタイが同じぐらいで約7千人というような状況になっております。その中で、訪問先ですが、主に宿泊施設、ロイヤルホテルとビジネスホテルA Z、あとそれとハーモニーランドが主な訪問先となっております。

日出町の状況ですが、あと国の状況をあわせて申し上げますが、訪日外国人が、平成25年が1,036万人、そして平成26年が1,341万人ということで、大幅に伸びております。そして、国とすれば、平成32年、東京オリンピックの年には、2千万人を目標にするというような形で、今後対策をとっていくというようなふうに聞いております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） 日出町を訪れる外国人観光客のほとんどが韓国人観光客ということですが、県のデータを見ましても30万人の外国人観光客のうち20万人弱は韓国人です。大分ソウル間の航空便が利用できるためだと思いますが、そのほとんどの観光客は、日出町を通り過ぎるだけで、別府市、大分市で消費しているのが現状だと思います。こういう観光客の誘致に対して、何か施策があればお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 今後の外国人観光客の誘致に対する対策ですが、来年度、大分県においても誘致のための国外に出向いての、特にアジアの中ですが、商談会や誘致活動を積極的に行うということで計画をいたしておりますので、県と連携する中で日出町もそれに組み込んでいきたいというふうに考えております。

それから、ことしの1月に観光協会のほうで、韓国のほうに、大分県、宮崎県等と一緒に外向きまして、商談会またエージェント訪問等を行ってきております。それから、平成25年度から別府国際観光港にクルーズ船が停泊しておりますが、その大分県国際観光船誘致促進協議会に加入をいたしております。平成24年には、そのクルーズ船から約4千人の観光客がハーモニーランドのほうに訪れたという実績もあります。ただし、それ以後、国と国との関係等の悪化等もありまして、ハーモニーランドに対しては今のところクルーズ船からの入場者っていうのはかなり少なくなっているというふうに聞いております。

その中で、最近のクルーズ船の入港状況を見ますと、平成25年が9隻、そして平成26年が13隻ということで、だんだんやっぱりクルーズ船の数もふえてきておりますので、そういう中

で、ハーモニーランドもそうですけれども、それ以外に日出町のほかの観光施設等にも来てもらえるような対策をとっていかなければならないというふうに思っております。

ただし、受け入れ態勢の部分で、パンフレットや案内標識それからホームページ等、外国標記等が必要となってくると思いますし、通訳やあと外国人のためのインターネット環境とかそういう整備も必要になってくるのではないかなというふうに思っております。そういう中で、一つ、今現在1枚ものの観光マップを日出町ありますけれども、それについて英語表記でのマップに変える準備作業を今現在行っているところです。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） その英語表記はいつごろできますか。それと、また韓国語とか中国語表記とかいうのはつくられないんですか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 英語表記については今年度予算で何とかやりたいというふうに思っておりますが、予算の関係もありますので、韓国語その他中国語とかいうような形の分については、なるべく早くということで、27年度以降準備をしていきたいというふうに考えております。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） 日出町でも消費してもらえるような免税店や大型商業施設の誘致等の計画はありますか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 免税店につきましては、かなり免税店の制度が昔に比べて緩やかになってきているということで、免税店という制度を取り入れやすくなっているというふうには聞いておりますが、今現在具体的に免税店を既存の施設に取り入れるとか、そういう誘致するとかいうことは今のところ具体的なものはございません。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） ことしは、東九州自動車道の開通やデスティネーションキャンペーンもあり、また3月2日には2019年度のラグビーのワールドカップが大分銀行ドームで開催することが決定しました。外国人観光客を含め、県内外からの観光客が日出町で消費してもらえるような観光振興にも力を入れる時期だと思っておりますが、町長の考えをお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） まず、日出町は、観光というと若干抵抗を示すような状況が過去にあつてんじゃないかと思っております。観光についての理解をどんどん宣伝していくということが大切だ

と思います。そういう意味から、今、観光については相当力を入れさせていただいています。

そういう中で、まず外国のそういうことまで考えたいんですが、まずは周辺に海外留学生がたくさんあります。APUを初め別府大学、そして溝部学園、そして大分のあちこちにたくさんいらっしゃいます。ですから、そういう人たちが日出町に近づいてこれるように、今後ともそういう形でまず努力させていただきたい。そういう中で、やっぱりそういう学生さんがいるわけでありまして。外国語については非常に堪能であります。日出町の中でも韓国語あるいは中国語に詳しい方がいらっしゃいます。ですから、そういう人たちの協力をできるだけいただきながら、やっぱり環境をしっかりつくっていきたいと思います。大変重要な要素だと思いますので、今後とも努力させていただきたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） 私もAPUの方たちの交流は大切だと思いますけども、例えば日出町のイベントでAPUの方を呼んで母国の料理を振る舞うとか、そういう企画とかはありますか。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 町としても、二の丸館周辺でもやっておりますし、また既に最近、深見邸で、衣装、着物を着ていただいて地域を周遊するとか、いろんな形で、そしてまた特に日出町の各地区の区長さん等が中心になりながら、APUの学生さん、留学生の皆さんをお呼びして交流を相当やっております。

ですから、私はそういうのがばらばらでありますので、できたら一括して、日出町ファンづくりということで会をつくって、できるだけおもてなしして、何か行事があるときにはそういう方々に御案内したり、若干のお世話できるような形をとるよということ、中で話し合っておりますので、そういう点を、あらゆる点を考えながら進めていきたいと思っています。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） そういう交流をやって、日出町への観光客の増加につながることを期待しています。

では、最後の質問に移ります。

プレミアムつき商品券の発行についてですが、国の地域消費喚起・生活支援型交付金を活用し、プレミアムつき商品券の発行を決める自治体が相次いでいますが、日出町ではどうするのかの質問をする予定でしたが、初日の議案の提案理由の説明でプレミアム商品券の発行を実施するための補正予算を計上しているとのことでしたので、多分予算委員会でも説明があるとは思いますが、発行時期や内容について聞かせてください。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 発行時期につきましては、消費喚起という国の目的からすると、なるべく早くそういう商品券が使えるような状態に下さいということだというふうに思っておりますので、そういう部分では、基本的にもう商工会のほうにお願いするような形になると思いますが、商工会と今後協議して、なるべく早く発行できるように進めていきたいというふうに思っております。

そういう中で、内容ですが、今回、発行総額をプレミアム部分を含めて約2億4千万というふうに計画をしております。そして、その中でプレミアム部分が、過去2年間やってきましたが、そのときは10%でしたが、今回は20%ということでかなりのプレミアム率ということになります。この率については、基本的に大分県全市町村でやるような形になると思いますので、その中でほとんどが20%というような形で実施するのではないかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） 中学生以下の子供のいる家庭は、子供1人につき2千円引きで販売するとかいう自治体もあるようですが、そのような特典は日出町にはありませんか。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長、原田秀正君。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 引き続き、福祉給付金、子育て給付金が27年度も継続で発行するようになりました。それにあわせて、うちのほう、福祉対策課のほうでも、多子世帯と低所得者に対しまして、商工会が発行する商品券を使った商品券を発行したいというふうに思っております。

具体的には、多子世帯の支援事業でありますけども、第3子以上のいる世帯に対しまして、1万円の商品券を発行したいと思います。そして、あわせて今申し上げました子育て臨時交付金が、今年度については3千円ということありますので、合わせまして1万3千円になるかと思っておりますけど、多子世帯、臨時交付金を受ける方全員には行かないと思っておりますけども、第3子以上の世帯に発行にしたいと思います。

もう一つ、低所得者世帯に対しまして、非課税者に対しまして、4千円の商品券を提供したいというふうに思っております。

あと、ほかに、これは商品券ではありませんけども、県の事業で、子育てほっとクーポン活用事業というのがあります。出生時に1万円のクーポン券並びに1歳から6歳までの未就学児に対しまして、やはり1万円のクーポン券を発行して、これは、使用は日出町の子育て支援事業、例えば一時保育とか延長保育に限らせていただきますけれども、それに使用できるということで、今、具体的にはまだ詰めておりませんが、内容をもう少し詰めまして、また皆さんにはお

知らせたいというように思っております。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） 3子以上のいる家庭には1万円の商品券を渡すということですが、これは3人いようが4人いようが5人いようが1万円なんですか。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） そのとおりであります。1世帯に1万円を発行したいと思えます。

○議長（熊谷 健作君） 3番。

○議員（3番 上野 満君） これにより、日出町の消費喚起につながることを期待しています。これで、私の質問を終わります。

.....

○議長（熊谷 健作君） お諮りします。一般質問の途中ですが、ここで中断してしばらく休憩したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（熊谷 健作君） 異議なしと認めます。したがって、しばらく休憩いたします。午後1時10分より再開いたします。

午後0時10分休憩

.....

午後1時09分再開

○議長（熊谷 健作君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続けます。8番、池田淳子君。

○議員（8番 池田 淳子君） 8番、池田淳子です。通告に従いまして一般質問を行います。

我が国の人口は減少局面に入っており、また若者の地方からの流出と東京圏への一極集中が進み、首都圏への人口の集中度は高くなっております。このままでは、人口減少を契機に、消費市場の縮小、人手不足による産業の衰退などを引き起こす中で、地域のさまざまな社会基盤を維持することも困難な状況に陥ってまいります。

このような状況を踏まえ、政府は昨年11月に成立したまち・ひと・しごと創生法に基づき、日本全体の人口減少の展望を示した長期ビジョンと地方創生のための今後5年間の総合戦略を昨年閣議決定いたしました。さらに、都道府県や市町村には2015年度までに地域の実情を踏まえた地方版総合戦略の策定が努力義務として課されております。まち・ひと・しごと創生法の主な目的として、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯どめをかけるとともに、東京

圏への人口の過度の集中を是正すると記されています。その上で、国民が出産や育児に前向きになれるような制度の整備、地域における社会生活、インフラの維持、地域における雇用創出、国と地方自治体の連携などが基本理念として掲げられています。

この地方創生の鍵は、地方が自律につながるよう地域の資源を生かし、責任を持って戦略を推進できるかどうかと言えます。日出町は、計画策定のためのノウハウや人材確保は十分でしょうか。地方創生に積極的に取り組む市町村に対し、意欲と能力のある国家公務員や大学研究者、民間人材を首長の補佐役として派遣し、地域に応じた処方箋づくりを5年間支援してくれるとのことです。対象は、人口5万人以下で、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、実施する市町村であることとあります。

そこで、お尋ねいたします。日出町は、応募条件、対象に該当いたしますが、この地方創生人材支援制度を活用するのでしょうか。

次の質問からは質問席にて行います。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長、井川功一君。

○政策推進課長（井川 功一君） それでは、池田議員の御質問にお答えをさせていただきたいと思えます。

人材の確保についてということだというふうに御理解をしております。各地方公共団体は、平成27年度中に、中・長期を見通した地方人口ビジョンと、5カ年の地方版総合戦略を作成することになっております。

御質問の人材確保についてでございますが、日本版シティマネジャー派遣制度、この内容なんですが、地方創生に積極的に取り組む市町村に対し、意欲と能力のある国家公務員や大学研究者、民間人材を首長の補佐役として派遣し、地域に応じた処方箋づくりを支援する制度でございます。

この派遣制度の希望の締め切りが、地方創生の全体像が明確になる前でしたので、現在、手を挙げてないのが実情でございます。今後、派遣が可能な状況になれば、検討してまいりたいというふうに考えておるところでございます。

また、地方総合戦略の策定実施に当たっては、昨日も答弁させていただきましたけども、産官学金労言と言われております、「産」は民間、「官」は役場、「学」は大学であり高等学校、「金」は地方銀行等の金融機関、「労」は労働団体の団体、「言」は報道機関の産官学金労言が連携した効果的な施策が実施されるよう、戦略の策定から担い手の選定、具体的な進め方まで、それぞれの代表も加わった形でPDCAサイクルに基づく分析を徹底して行うことが、事業というふうになっているところでございます。

この組織につきましては、他の市町村の状況を調査しながら、どのような産官学金労言の連携できる措置づくりができるか、検討してまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） これ、手を挙げなかったのは締め切り間近で、その構想がよく見えなかったということではよろしいんですかね。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 受け入れ態勢等も、まだはっきりわからなかった状況でございますし、まだ地方創生の中身自体が明確ではなかったということで、手を挙げなかったということで御理解していただきたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） これは、まさに首長の手腕が問われる事業といたしますか、地方創生が、全体が特色あるまちづくりと、先ほどからも申しておりますけれども、独自のその戦略がきちんとなっていて、それで、もうそういった方のアドバイスは要らないということで断った、手を挙げなかったということではないんですね。

お隣の杵築市は、一応、手を挙げて、何件かな、何市町村かちょっと私、聞いたんですけども、やっぱりきちんと手を挙げて申し込んであるんですね。

それは応募なのか、早い者勝ちなのか、抽せんなのか、ちょっとわかりませんが、全国で144市町村が申し込んでいるということでしたけれども、この100市町村程度という概要の説明にはありましたけれども、今後、想定でしかありませんが、そういった応募といたしますか、そういうのがある予定はあるんでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 追加要望があるというふうには、今のところまだ聞いておりませんが、特に今、議員おっしゃるとおり、県内でも2月28日の合同新聞の記事にもございましたが、中津市が手を挙げておまして、中津市が副市長2人体制という形で、この部分の制度を使うという形になっているそうでございます。

もう一つの制度でございまして、地方創生のコンシェルジュ制度というのがございます。この部分につきましては、国家公務員の相談窓口を設けるという形になっておりますので、できれば、こちらの制度を有効活用したいなというふうには、今のところ考えているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） じゃあ、町長のお考えをお聞きしたいんですが、今、副町長いらっしゃるんですけども、そういう専門的な国のほうから派遣事業ということで手を挙げれば、多分、どうぞということになるんでしょうが、町長としては、その人材支援制度のほうを活用するという御意向はおありでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） ただいまの池田議員の御質問にお答えしたいと思いますが、やはり計画というのは勝手な自分たちの都合というわけでもありません。やっぱり広く客観的に専門的に意見を聞き、物を考えるということが重要であります。

そういう意味からしますと、私は、日出町で長い間、日出町の周辺に行ってなれ親しんだ人材もおりますが、そういう人ではなかった、違った物を考え、物を発言し見ると、そういう人たちというのは、私は極めて重要だと思っております。

これまでも、そういう意味から、町の職員はもちろん重要であります。一方で、農業関係については、横山さんという課長を県から派遣していただいた。水産についても、県で長いこと、カレイに専門家的にやってこられた方がいます。

それから、今、私にも、各部門に企業誘致であるとか、あるいは職員研修であるとか、専門的な職員を県で活動した方々を非常勤等で採用して、大いに中で助言・指導をしていただいております。

そういう意味からしますと、私は、むしろ私のほうも、ぜひそういう人材を求めたい。今、むしろ、国の方々がいないわけでありまして。あるいはまた大学を含めた専門的な方々もいないんです。そういう人たちは、それ、人材として必要だと思います。機会があれば、私はぜひ、ただ今、助役あるいは副市長の問題ありましたが、定数やいろんな問題がございますので、簡単には、そういう発言できないんです。いろいろな形で活用できる方法があれば、ぜひそれにかかわっていきたいと思います。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） 今、町長がおっしゃるとおり、由布市の副町長がいらっしゃって地元と行政機関、それで知り尽くした副町長とともに、さらに第三者的、客観的に日出町を見ていただいて、そういった多面的にサポートをしていただくような形で、こういったまちづくり、地方創生に携わっていただくと、非常にいいのではないかなと思います。

約制的には、非常勤ですとか臨時の採用で、1年、2年とか期間決まって、そういう制度となっておりますので、また次に応募する人が、そういう制度、全く同じ応募条件になるかどうか、ちょっとわかりませんが、そういうしっかりアンテナを張りめぐらせて、やっていただきたいなというふうに思います。

この地方創生というのは、ひと・仕事の好循環をどうやって作り出していくかということが問われるわけですが、若い方が、若い方といいますか、例えば大学、東京、関東中央方面に行って、こちらに帰ってきて就職がないから、そのまま東京に残るだとか、関東近辺に残るといった構図が今、でき上がっているのが、日本全体の社会の構図ではないかなと思います。

その中で、日出町でしっかりとした就労の場所等があれば、本当にいい町ですので、こちらに帰ってきて就職ができるような社会ができるのではないかなと思うのですが、そういった取り組み、これは国等の連携と県との連携と雇用の場を創出するには、そういったことが必要かとは思いますが、日出町としては、就労の場の確保、企業誘致も含めてですけども、どういうふうなお考えであるか、お聞きをいたしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 今回、まち・ひと・しごとと、まさにそういうことの御趣旨のとおりであります。そして、今、国のほう、東京都を中心にしながら約6%の方々が、場合によっては地方に行って仕事をしたいと希望が現にあって、調査結果がそうなっている。そういう人たちをいかに地方に持ってこれるか、これは私を、町長の手腕とか能力が問われているわけでありまして。

そういう意味からしますと、今回の地方創生は県本部もつくり上げましたが、日出町も去年からつくり上げて、よそよりも早くつくり上げて、対処しようとしております。

そしてまた、6月、7月ごろには、もうある程度の計画をつくり上げると、そして、その計画のもとに、県としてもさらにやっていると、こういう段階的に決まっておることがあります。

それと同時に、今回の地方創生事業は、非常に綿密に計画されております。いろんなさっき言いましたどういう計画で、どういう案でチェックポイントが全部掲げられておる。指針や考え方が全部明示されています。

ただ、こうしたらどうかという今回の事業ではありません。非常に細かく検討事項等が提起されて、そういうことを一々チェックするというか、私どもが気がつかない点について、やっぱりチェックすることが指示されております。そういうことからありますと、私は、今回は日出町の絶好のチャンスだとそういうふうに思っています。

特に交付税とか、あるいは過疎でもない、僻地でもない、いろんな状況でいろんな財源的に不足する事業であります。いい知恵を出していけば、それに対処していただけるということでございますから、そういう意味から、私はまさに日出町が問われているんだと、そういう思いで今回も取り組みたいと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） まさに町長の腕の見せどころだと思っておりますので、しっかり期待をしたいと思います。

しっかりそのアピールする力がないと、今回のこの事業にはのっていけないと思いますので、しっかりその辺を各課、縦割りではなくて、しっかり連携をとりながら、やっていっていただきたいなというふうに思っております。

周辺市町村との連携ということでお聞きをしたいんですが、先ほどもちょっと触れましたが、

今回のこの人材支援制度については、杵築市は手を挙げて、もう計画として副市長という立場で入ってみえられるというふうに、違ったかな、済みません。ちょっと間違っていたら済みません。そういう手を挙げてしたということをお聞きしております。

今後の連携としては、日出町だけがどんどん頑張ってもらっていただくのもなんですが、そういう制度の使い方とかそういったものも、相談なり問い合わせなりということをやっていくという方向性はあるのでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 周辺市町村との連携はどのように考えているのかという御質問だというふうに理解しております。

周辺市町村という形でございますが、広域観光や都市農村交流など、個別の施策における複数の市町村間の連携のほか、定住自立圏や連携中枢都市圏等、圏域設定を行った取り組みなど、市町村連携に関する施策に積極に取り組むことが、この地方創生には期待されているところでございます。

さらに、経済面、文化面、地理的状況等の観点から、一体性、関係性のある複数の市町村が、共同して市町村版総合戦略を作成することも、考えられるということになっております。

いずれにいたしましても、日出町のみでは解決する問題ではございません。広域観光等も含めまして、近隣市町村の状況を把握しながら、連携できる部分については検討してまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） ぜひぜひお願いをしたいと思います。

まち・ひと・しごと創生総合戦略の中に、地方への新しい人の流れをつくとあります。これは、今、住んでいる人たちが定住することはもちろんですけども、町外に住んでいらっしゃる方が、日出町に住みたいと思えるような施策が必要だと思えます。その現状と課題をお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 東京都在住の約4割、特に10代、20代の男女の47%、それから50代の男性の51%が、地方への移住を検討したいと回答しているところでございます。

そのため、移住・定住をしてもらうためには、まず、日出町を知ってもらうことが重要だというふうに考えております。

大分県が行っております、ふるさと大分UIJターン推進事業等とも連携をしまして、移住イベント等に積極的に日出町ブースを設けたりすることが、今からは重要ではないかな、なかろうかなというふうに考えているところでございます。

また、今年度、作成をさせていただきました、ひじん本のように、日出町を紹介する雑誌等も作成していきたいと考えているとでございます。

また、移住者や定住者に対する奨励金制度や補助金制度については、県の事業については、連携して行ってまいりたいというふうに思っております。また、各市町村単独の事業等もございます。例を出しますと、うちの町でありましたら、新築住宅に対する奨励金、それから子育て世帯の賃貸住宅に対する奨励金等もございますが、その分につきましては、他の市町村の状況等を調査しながら、奨励金の制度の中身等も、検討してまいりたいというふうに考えておるとでございます。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） 本当に知ってもらおうということが、やっぱり一番大事なことでありまして、この47%もいらっしゃる、その地方に住みたいという方をいかに日出町に、大分県日出町に来ていただくかということが課題ではないかなと。そのための施策が、施策はあっても、それをアピールできる場がないと、知っていただくことができませんので、その辺の問題で。

ただ、待っているだけではだめでしょう。しっかり、こちらが、日出町が元気になってアピールできる、知っていただけるようなふうにしていかないといけないと思います。

よその自治体で、これがよかったからといって全てまねをするのが、今は何となく風潮的にあるんですが、例えば、私も1回、一般質問でしましたけど、ゆるきやらの質問をしましたけど、ゆるきやらがブームだからといって、そのゆるきやらをまねすればいいのかということでもないというのが、最近、ちょっと思ってますね。

それとか、例えば道の駅がすごく栄えている。同じように、そういうふうになっている、まねしたからいいのかというものでもないと思うんですね。やっぱりその地域地域に応じた人口の人数ですとか、その集客数ですとか、そういった特性が影響してくると思いますので、その辺をしっかり議論した上で、施策を考えていっていただきたいなというふうに思います。

日出町に今、住んでいる人が、結婚してそのまま日出町に住む、もしくは結婚後、町外から日出町に移り住む、そういったいろんな方がいらっしゃいます。その後、結婚して日出町に住めば、順調にいけば、出産・子育てとなるわけですけれども、子育て支援については、昨日、本日で、先輩議員等が言われましたのであれですけども、そういった出産・子育て環境整備は、今、日出町は、どこから来てもらっても大丈夫だ、自信を持って産み育てやすい町だと言えるのかということをお聞きしたいんですが。

といいますのも、出産の環境に限っていえば、日出町には産婦人科がございません。この産婦人科がない期間がすごく長く続いているわけですね。別府や杵築の産婦人科で出産していらっしゃる方がいるというのが、現状だと思います。

遠くは大分市まで行っていらっしゃるという方もお聞きをいたしますけども、現状と課題、その産婦人科が日出町になくていいのか、今後は、その移住地といいますか、する計画等があるのかどうかをお尋ねいたします。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長。

○健康増進課長（高倉 伸介君） 池田議員の御質問にお答えいたします。

日出町における産婦人科は、平成19年4月から、産婦人科医院が休診いたしましてから診療科目がなく、住民の皆様方の御不便を感じているところがあると思います。

大分県の医療計画によりますと、県内の産婦人科医師は、平成14年、117人でしたが、平成22年には91人と減少しておりまして、地域の中核となる病院等でも、分娩の扱いを休止しているところもあるようで、産婦人科医、また新生児科医師を初め助産師、看護師等の確保が大きな課題となっております。

このような厳しい中、日出町では、町長みずから大分大学医学部等に、町内での開業をお願いしにお伺いし、ぜひ町内で産婦人科を開業してもらいたいとの申し出等を行っていたところですが、現在まで、まだそれに対して開業にまでは至っておりません。

また、診療所に1つの一般病床を設ける場合は、医療法に基づきまして、知事の許可や大分県医療審議会の審査が必要になってきます。現在、日出町を含む第2次医療圏域での既存病床数は、基準病床数を大きく上回っている状態で、新たな増床は困難な状況にはありますが、日出町で産婦人科の開業を目指す方がいらっしゃれば、町を挙げて開設に向けて検討に働きかけていきたいなど思っております。

また、あと婦人科につきましては、今年度から検診科目に、サンライズ酒井病院のほうが、婦人科の検診をしていただけるようになりました。サンライズ酒井病院にお聞きしたところ、婦人科の検診は来年度も引き続きやっていたですが、診療科目としての開業は、まだ今のところ、難しいということでした。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） 婦人科のこういうふうに言うと、また誤解を招くかもしれないんですが、産婦人科になりたくないというお医者さんが多いというふうに聞いていますというのは、普通の内科とか外科とかは、そういった病状、症状がよくなって、先生に感謝こそがされるんですが、産科医は、普通に産まれて当たり前、もし何か事故があれば、そういった損害賠償だとか、今、そういったことになりかねないので、なかなかリスクが非常に大きいので、なりたがる方がいらっしゃらないというふうなこともお聞きしますけども、その産婦人科に限らず、婦人科というのは、もう女性は一生と言っていいほどつき合わなくてはいけない診療科目なんです。

なので、別府にあるからいいじゃないか、お隣、杵築にあるからいいじゃないかではなくって、できればといいますか、もう本当に早急に日出町のほうに、そういった産婦人科、もしくは婦人科等が誘致できるというなと思うんですけど。

課長、済みません、先ほど、その病院の中に病床数が多いというのは、例えば今、ある病院にその診療科目をふやすことができないということですか。ごめんなさい、それ、理解ができませんでした。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長。

○健康増進課長（高倉 伸介君） 診療科目はふやせます。例えば病院の中でベッド数をふやせないという意味でございまして、診療科目自体はふやせるということでございます。

だから、診療所の開設については、大丈夫だと思っておりますが、その診療所にベッドを配置する、一般病床を配置するというのは、知事の許可が要するというふうに考えております。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） その許可というのは、すぐにかどうか難しいんですか。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長。

○健康増進課長（高倉 伸介君） これは、東部保健所のほうに問い合わせたところ、一応、5事業5科目とかとあって、早急に整備しなきゃならない事業につきましては、先ほど申しました大分県医療審議会の審査でオーケーだというふうになっておるんですが、この医療審査会の審査でオーケーという許可をまたとらなければならないということで、いずれにしても、すぐ簡単には増床というのは、難しいというような判断でございました。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） わかりました。でも、病院を誘致するにしても、すぐにできるわけではないので、開業をしたいという意向のある先生がいらっしゃれば、その段階で準備を進めていけば十分間に合うわけですよ。

じゃあ、それで、今までも御努力を町長、いただいているかとは思いますが、さらに、本当に人口3万人を目指す町として、産婦人科がないのはいかなものかと私、思います。

本当に、子供を安心して、夜中に、もし何かあったときに、かかりつけの病院に行くのもですけども、近くの病院がある、産婦人科があればそこで産もうという選択となりますので、できれば、しっかりまた力強い誘致をお願いしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 産科と婦人科は分けたいと思いますが、婦人科は、私はぜひ52%、日出町の町民の女性であります。やはりこれはもう絶対なきやいかんと、そういうふうに思っております。

そういう中で、山田先生が廃業されるときに、私と一緒にあって、随分、後を何とかと、こういうことであちこち回りました。そのとき私が申し上げたのは、特に産科については、今の若い人たちは、ホテルに入っている食事がいいとか、待遇がいいとか、いろんなことが話題になるんで、なかなか古い病院では対処ができないというのが、山田先生であります。

さらに輸血問題があります。相当、輸血・出血があつたりします。今度は、麻酔等がいろんな、あるいは助産婦の問題とか、非常に周辺が厳しんだと。そういうことで、なかなかその産科については難しいという状況がありました。それでも、やっぱ日出町は、別府もありますし杵築もありますからということを随分努力させていただいたんであります。

そのときに、私から申し上げたのは、ふるさと融資というのがあります。これはお金が全部、設備投資、お金がかかる。若干、日出町でも、今まで病院に対して提供した融資制度があります。これは町を含めて金利等は負担しますが、皆さんについては、設備投資全部、借りたものについては均等償還しますが、余りお金がかからない、そういうことであります。固定資産税も場合によってはというような話を随分したわけであります。

しかし、実際的にはなかなか難しい。今、全体的に産科については非常に厳しい状況。ただ、今度は婦人科はどうかといいますと、今、町内でも、子宮がん検診等については、診断ができるようになっていますが、ぜひ、それは診断だけで、健康診断をやっているわけでありまして、産科を設けてはいないわけです。

ですから、引き続き私は、産科だけでも設置していただくように、日出町町内、病院がありますから、そういう病院の中でぜひお願いしていきたいと。何人かお願いしているんですが、なかなか実施できておりません。

そういうことからしますと、ぜひ議員の各位も、町内のいろんな方で関係者がいるわけです。ぜひ町に積極的に帰ってきていただくように、その場合の日出町の今言う将来、展望をしたときに必要でありますので、最大限の支援努力はさせていただこうと、そういうふうに思っています。

産科と同時に泌尿器科がない、ほかはほとんどあります。この2科だけは日出町にない。それだけです。また、ハンディーになっているわけですから、今後とも努力させていただきたいと思えます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） 産婦人科医、今、先ほど言いましたリスクの問題等ありますが、そんな中でも、91名の先生がいらっしゃって、医師としての志でしょう。やっただいてい先生もいらっしゃるわけですから、そういった医師の道を選ぶ上で、その何が志なのかという

ところも、そういったバイタリティーあふれる方を、町長と同じテンションの方を探していただいて、誘致していただければと思います。

では、次の質問に移らせていただきます。道路空洞化調査についてですが、インフラの老朽化などにより、道路の陥没事故が発生しております。つい先日も、日本ではありませんでしたが、突然、歩道に大きな穴があき、歩行者2人が巻き込まれる事故が起きたのをニュースで拝見いたしました。

幸い、命に別状はなかったようですが、それでも突然のことで、さぞかし本人たちは驚いたことではないかと思えます。

日本でも、陥没事故が発生しているとのことですが、大小合わせて。また、その実行発生箇所は、圧倒的に市町村道が多くなっております。事故を未然に防ぐためには、道路をくまなく調査するしかないと思えますけれども、技術的なものも含めて、現状がどうなっているのか。また、今後、どのように取り組んでいくのか、お尋ねをいたします。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 池田議員の御質問にお答えいたします。

現状は、主に、舗装のひび割れや橋梁の長寿命化の調査に重点を置いております。大規模な空洞化調査までは実施ができておりません。最近では、3年前に、商店街の町道で大きな陥没が発生して、町民の皆様にも多大な御迷惑をかけたことは記憶に新しく、調査の必要性は痛感しております。

今後の取り組みにつきましては、現在、行っている職員によるパトロールの強化、大きな埋設物等がある箇所や、ひび割れが著しい箇所を試掘することで、早期発見、復旧対応に心がけたいと思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） これは目視等でわかるものなのかが、非常に不安に思うところなんですけれども、多分、課長も御存じだと思います。車で時速60キロぐらいですかね、道路を清掃車みたいな感じで走って、空洞があるかないかCTで調べるのがありますが、それはもう予算的にも絶対に無理ですと、多分、おっしゃるんだとは思いますが、そういった機械を使っただけの検査等もあると思うんですけれども、その車以外に、そういった目視以外、ほかにその検査の方法は何がありますか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 池田議員さんが、今、おっしゃっていたのは、地中レーダーによる路面化の調査だと思います。絶対無理だとは言っておりません。

地中レーダーの調査、3年前の空洞化で、商店街の中であったときも、終わった後に、その周辺は地中レーダーを使って調査をしております。ですから、この調査をやれないことはないんですけども、ただ、日出町内の道路を全部合わせますと、333キロ、約330キロございます。これを全部地中レーダーでやると、膨大な金額になります。

それと、国・県も、やはり地中化調査をしております。九州地方整備局では、九州管内一括して出したりはしております。ただ、やはり南海トラフ地震対策特別措置法にあるような、トラス地域やリアス海岸、それとか陥没事故があると、どうしても物流もとまってしまうような地域、こちらでいえば、佐伯、津久見、臼杵とか、そういうところを優先的にやっているようでございます。

国・県もそういう状況の中で、なかなか私どもも国道10号、213号線ございますけど、今、県内のほうに、県土木のほうにお伺いしたんですけど、今現在、なかなか難しいという状況でございました。

県道では、やはり津久見、佐伯のほうが優先されている。それと、記憶に新しい九州北部豪雨、中津方面、耶馬溪方面で豪雨が出たところが最優先で、平成25年度には71キロ、調査をしたという状況がございます。

ですから、地中レーダー等も視野には入れておるんですけども、日出町内では主要幹線を、もし国・県がやるときにあわせて一緒に合同調査ができればという気持ちは持っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） 全体無理ではないということなのですが、済みません、後からの質問に、今、国道、県道、町道との連携はということで、先にこちらを済みません、じゃあ、お聞きしますけど、今、課長がおっしゃったのは、国道、県道をするときに、一緒に主要道路に合流する町道というんですか、そういった形で、一緒にレーダーでやるということは可能ということでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 日出町は1級幹線道、集落間を結ぶ道路、もしくは大きな集落から国道・県道に出る道路が、約29キロございます。この29キロのうち約7割が2車線化されております。

この部分については、当然、国道・県道に連結されていますので、国・県がやるときにあわせて一緒に、その交差点周辺、もしくは空洞化が予想される谷合い等を調査することが可能だというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） もし、町で単独で調査にこのレーダーを使って調査をするとした場合、この330キロ全部をする必要があるのかないか、ちょっと首をかしげるところですけども、期間はそんなにかからないと思います。済みません、予算はどのぐらいかかりますか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 期間につきましては、調査期間、車で走る時間は大変短いんですけども、そのレーダーで集積したデータを解析するのに、約3カ月ぐらいかかるであろうということでした。

それと、主要幹線、先ほど言いましたように、約29キロ、約30キロですね。この30キロをやるだけであれば、600万程度から1千万程度でできるものじゃないかというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） 町民の安全、命を守るために、この600万、1千万が、どうなのかという話になるわけですけども、町長、いかがでしょう。この道路空洞化の調査に、こういった車を走らせて、レーダーで空洞があるかないかという調査ができるのがあるんですけども、そういったとりあえずと言ったら大変あれですけど、一応、この主要の29キロ、せめて早急にやるというようなお考えはないでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 私よりも財政課長がいいかもわかりませんが、お答えさせていただきたいと思います。

こういう状況もあります。橋もあります、トンネルもあります、随分、暗渠、いろんなものがたくさんございます。ですから、事故が起こってはならないわけでありますから、そういう意味からしたら、やっぱりこれは最優先してすべきだと、そういうふうに思っておりますが、いつ、どういうふうにするかというのは、担当課と十分協議させていただきたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） 町道の済みません、場所があれですけど、線路の橋の上の陥没事故等ありました。予測できる場所は目視でも十分できるのかなとは思いますが、目に見えないところ、そのひび割れもなく、いきなり陥没する事態もあるかと思っておりますので、そういった予算に伴うことですので、どんどんやれやれというわけにはいきませんが、財政課長とも相談しながら、財政ときちんとしっかり計画を立ててやっていただいで、私の質問とさせていただきます。

.....

○議長（熊谷 健作君） 次に、2番、阿部真二君。

○議員（2番 阿部 真二君） 皆さん、お疲れさまです。ただいま御指名いただきました、2番、阿部真二です。本日は、通告書のとおり大きく3項目、6件の質問をさせていただきます。明確な答弁をお願いいたします。

去る1月25日に、熊本市で行われた地方創生フォーラムにおいて、石破地方創生担当相が、地方創生者の主役は市町村、そしてコーディネートを行い、地域にふさわしいビジョンを描くのが都道府県だ。特に農業、漁業、林業、観光を初めとするサービス業、地方にある潜在力を最大限に発揮するために何をするか、民間の方々の創意工夫も重要だ。国は、目いっぱいお手伝いをすると述べられました。

そこで、日出町の1次産業、農林業と漁業に分けて、後継者対策と活性化対策についてお尋ねします。なお、午前中の工藤健次議員より同様の質問が行われましたので、農業後継者についての質問は割愛させていただきます。

農林業就業人口の推移と今後の見込みはどうなっていますか。また、それを踏まえ、活性化策をどのようにお考えですか。

次の質問からは質問席で行います。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長、岡野修二君。

○農林水産課長（岡野 修二君） 阿部議員の質問にお答えしますが、今、農林業と言いましたが、漁業でよろしいのでしょうか。

○議員（2番 阿部 真二君） 活性化策については農業もありますので。

○農林水産課長（岡野 修二君） はい、わかりました。午前中の質問にもありましたけれど、農業につきましては後継者が少ないと、そういう状況にあります。今後、高齢者の農業従事者のリタイアが進むと考えられますので、農地の継承というのが問題になってくると思われます。後継者対策、それで活性化対策といたしましては、農家の子供以外の新規就農者、そういう方を受け入れていく体制整備が必要と考えております。

就農の相談の中では、やはり就農の適正というのを一つ判断する必要があると思っております。農業によそから従事したい方につきましては、時間が自由であるとか、自分の創意工夫でできるという安易な考えといたしますか、割と気楽に参入しようとする方がいるんですが、実際に、農業技術の問題でありますとか、資金の問題でありますとか、そういうところで行き詰まると、そういうところが大変大きな問題となっております。

そういうことがありますので、しっかりと、まずは相談を受けて、その本人の姿勢なりそういう金銭的な状況なりを関係機関と判断しながら、支援をしていきたいと考えております。

その中で、いろんな農地でありますとかありますけど、その辺につきましては、今、農地中間管理事業を行っております。そのほか農業経営継承事業といいまして、第三者継承というんです

けれど、農家の方で、実際、もう後継者もいないと。で、本人も農業をリタイヤしたいと、そういう方につきましては、新規参入希望者に、そういう施設でありますとか、果樹の農家であれば、そういう果樹の木、そういうもの自体を受け継いで、そういう指導について何年間か行ってやると、そういうような今、制度も新設されてきておりますので、その辺、こちらのほうも十分把握しながら、そういうものを進めていくと。そういうことで、技術的なものというか、活性化を進めていきたいと、そのように考えるところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 活性化策ということで、今、実際に農業に携わるというか、土を耕したり何か植えたりとかという、そういった部分での活性化策について答弁いただきましたけども、新規就農者を開拓するに当たっては、実際に土地を耕すとか植えるとか、そういった部分ではなくて、前々から言ってます6次産業化だとか魅力ある、もうかる農産加工品等々も必要じゃないかと思えます。

今、JA加工場とかってありますけども、さらなるそういう加工物の開発等々は何か考えられていますか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 今のところは、農協の加工所等を中心にやっているとございますが、例えばギンナンにつきましては、今、藤原のほうで、銀杏酢研究所ということで、ギンナンを原料にして酢をつくるとか、そういうことにも取り組んでいるところがございます。

あとは、畜産関係で、鈴木養鶏場とかありますけど、そういうところにつきましても、自分のとこのものを6次産業化ということで販売するとか、そういうことに取り組んでいるところはございます。

新たなところにつきましては、こちらも把握できてない部分もございますけれども、これから先、もちろんそういう6次産業で、自分で栽培したものを今度は商品化して売っていくと、これは大変重要な部分でございますので、そういう情報を仕入れながら、支援できる部分につきましては積極的に支援していきたいと、そのように考えてるところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 最近よく聞くギンナンの部分ですけども、確かに日出町、今、ギンナン、生産量ナンバー1ということで、非常にこれから注目があるものだと思いますので、ぜひそういったものをブランド化するというような考え方はお持ちでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） もちろんブランド化して、日出町の特産品として売り出すものがふえることが望ましいわけではございますので、そのように努めていきたいと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） じゃあ、ぜひ、ブランド化するんであれば、商標登録含めてよそにまねできないように、しっかり日出町ブランドとしての登録をしていただきたいと思います。

関連して、世界農業遺産の認定地域として日出町も入っていますので、世界農業遺産のシンボルマーク、あれを日出町も活用できるような検討を、今、されていますでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 世界農業遺産の中で、ブランド認証事業と申しますか、ブランド認証というものを世界農業遺産の中で行っております。現在まで、そういう対象になっているのが、シイタケと七島イでございます。日出町につきましては、今、七島イございませんし、シイタケにつきましても、いろいろ条件がございますして厳しい部分がございます。

平成27年度から、米についてブランド認証が始まるようになっております。ただし、いろいろ要件がございますして、地域内で生産されたもので、その中で検査で1級に格づけされたお米、そしてしかも有機農産物であるか特別栽培農産物で、なおかつタンパク質の含有率が6.5%以下と、そういうふうな厳しい条件はあるわけでございますけれど、今すぐに日出町の中でそれに取り組む方がいるかというところちょっと疑問でございますけれど、これから先、そういうものに取り組もうという農家に対しましては、ぜひともそういう認証制度にのっとって、認証マークをつけて販売できるようになるように支援をしていきたいと思っております。ただし、それが即高い価格で売れるかと、これはまた一つ問題ではございますけど、少しでも高い価格で売れるように支援していきたいなど、そのように考えてるところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） では、ぜひ世界農業遺産認定地域ということで負担金も納めてるわけですので、その辺のシンボルマークも使えるよう、魅力ある農産物加工ができるように、支援のほうしていただきたいと思います。

続いて、漁業就業人口の推移と今後の見込みはどうなっていますか。また、それを踏まえ、後継者対策及び活性化策をどのようにお考えでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 漁業についてでございますけれど、これまでの漁業の経営体の数の推移でございますけど、1993年、平成5年が122戸、2003年、平成15年が98戸、2008年、平成20年が83戸と、現在は76戸というような、そういうふうな数字をつかんでおります。また、若い方ということで、今、漁協日出支部青年部がございますけれど、今、青年部に加入してるのが17名と、そういう状況でございます。

今後の見込みといたしましては、高齢化が進んでおりますし、漁獲量の減少でありますとか漁

果の低迷、そして燃油価格の高騰等を考えますと、漁業就業人口というのは減少していくということが予想されると思っております。

その対策といたしましては、やはり漁業の子供さんたちが少しでも跡を継ぐように、魅力ある漁業と、そういうものが必要になってくるんだと思います。現在は、とる漁業というのが主でございすけれど、これは漁に出てみないとわからない部分もございすので、やはりこれから先は育てる漁業と、そういうものが必要になってくるんだと思います。また、育てる漁業に加えまして、やはり、とる漁業の中で、海中でありますとか海岸線でありますとか、そういう環境整備のほう、そちらのほうにも努めていくことが必要であると考えております。

現在、平成25年から27年度にかけて、別府湾、大分市、別府市、日出町、杵築市合同で、海底耕うん等事業を行っております。また、日出町につきましては、環境整備の一環として、アマモの造成等もずっと続けているところでございす。

あとは、城下かれいにつきましては、中間育成施設で、4月から7月までにつきましては広域で行ってるところでございすけど、昨年から日出町独自で8月以降も中間育成を続けて、少しでも大きくして放流をすることで日出町におけるマコガレイの漁獲量をふやしたいと、そういう試験を行ってるところでございすので、その辺につきましては、引き続き行っていきたいと考えているところでございす。

また、ハモにつきましては、御存じのようにハモ部会を設けまして、宣伝販売に努めてるところでございす。商品の名称につきましても、「ハモッピー」とか「ハモキチ」とか、そういうことで一般公募しながら取り組んでるところで、そういうところで、ハモにつきましても特産品化を進めていくように支援をしていくところでございす。

また、そのほか、今、青年部のほうで、カキの養殖試験というのをずっと続けてきたんですけど、この辺で一本立ちしようということで、今、カキの養殖につきまして、区画漁業権の申請を出してるところでございす。平成27年度からはそういう権利が取れると思いますので、本格的に養殖にも取り組むと、そういうことで青年部のほうも積極的に取り組んでるところでございすので、その辺につきましても後押しできればなと思ってるところでございす。

そのほか、放流事業等に取り組んでおりますし、ナマコでありますとかヒジキでありますとか、昔からやってきているもの、そういうものにつきまして、やはりこれから進めていく必要があるのかなど。あとは、これまで日出町のほうでおくれております干物でありますとか、そういう加工品、その辺につきまして、女性部を中心にそういうことをやってみないかということで、ぜひ指導しながらやっていきたいと、そのように考えてるところでございす。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 今、課長のほうから、とってもいい提案というか、今後やってい

きたいことが言われましたけども、育てる漁業ということで、これについては安定収入が見込め、うまくいけばもうかるだろうというふうになるとは思いますが、今、中間育成等々やられてるということですけども、具体的に、その養殖、カレイは前からやってるんですけども、そのほか何か、多分、高級魚がいいんだと思うんですけども、どういった魚種をお考えでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） その辺につきましても、いろいろ施設も必要ですし、養殖用にそれぞれに区画漁業権等が必要でございますので、これから漁協等と相談しながら取り組みたいものがあれば進めていきたいと、そのように考えております。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 養殖を考えるということは、多分、沿岸というか、陸から近い地域で囲ったり何だりしてやるんだと思うんですけども、何か最近ちょっとうわさに聞くんですが、どうも海水が汚染されているような部分が見受けられるということで、沿岸地域で海水の水質調査等々はやられているでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 別府湾等の水質につきましては、県のほうが毎年調査をしていると、そのように把握をしております。ちょっと結果について今どうこうということは言えませんが、県のほうで調査をしてると思っております。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 県のほうが調査されているということですけども、日出町としては特にウォッチはしてないというか、そういうデータはもらっているのでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） データにつきましては、いろんな会議のときに提出をさせていただいておりますので、また必要になればお知らせしたいと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） ぜひ、どういった状況になっているか、養殖に適したような条件になっているのかを教えてくださいたいと思います。

ちょっと個人的なあれなんですけども、漁業というわけではないんですが、ちょっと提案というか、したいと思います。

例えば住吉公園と牧の内の防波堤の間に、漁港ではないんですが、船場がありまして、そこに、例えば釣り堀とか、そういったものは考えられないかという検討をぜひしてほしいなというふうに思いますので、そういう漁業関係者が何らかの就労場が見つかるような、とるんじゃなく、育てるんじゃなく、そのほかでも何か就労の場ができればいいんじゃないかというふうに思います。

ので、ちょっと奇抜なアイデアですけども、そういう検討もぜひしていただきたいと思います。

では、次の質問に移ります。

2015年2月26日から、空き家対策特別措置法が施行されました。この空き家対策法は、増加する空き家対策として政府が定めた法律で、空き家の所有者に対して厳しい税負担や罰則なども設けられています。具体的には、最大で更地の6分の1だった固定資産税の税率が更地と同様になり、空き家を持つ人は従来の税負担の最大6倍の税負担となります。

そこで、日出町の空き家、空き店舗対策についてお尋ねします。

空き家件数の推移及び空き家バンクの登録、活用状況はどうなっているでしょうか。また、今後の取り組みはどうされますか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 阿部議員の御質問にお答えをします。

空き家バンク制度は、日出町における空き家の有効活用を通して、定住促進による地域の活性化を図ることを目的に空き家情報の提供を行うものであり、平成24年度より行っているものでございます。この制度は、町内の空き家などを、賃貸及び売却を希望する所有者から物件の提供を求め、町の空き家バンクへ登録した物件情報を希望する方に提供するものでございます。さらに、平成25年10月より、空き家バンク制度を介して町外在住者の利用登録者と空き家登録者が売買または賃貸者契約を結んだ場合には、双方10万円の報償金を交付する制度も始めたところでございます。

先月末現在、空き家を提供していただいております空き家が、述べて4棟でございます。物件を希望される方が、述べて32件でございます。これまで御契約された家屋は1件でございます。

残念ながら、空き家バンクに登録してる物件が少ないのが問題であります。都市建設課が行いました空き家の危険家屋調査、この情報をもとに、空き家の所有者並びに管理者を調査し、家屋所有者に対して空き家バンクに登録してもらえようをお願いをしております。

今後の取り組みでございますが、空き家の所有者並びに管理者の調査につきましては、まず地元のことを一番詳しい区長さんをお願いをさせていただこうというふうに考えております。また、今議会の補正予算のほうに計上させていただいておりますまちづくり協力隊、総務省のほうでは地域おこし協力隊というんですけども、その職員が採用できた場合については、空き家の調査、移住希望者の調査等も行ってもらおうというふうに考えてるところでございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 濟いません、先ほど、空き家登録数4棟と言われましたか。日出町内で、今、把握できている空き家の数は何件でしょうか。登録数は4件ということはわかりま

した。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 平成25年の都市建設課の危険家屋で調べた棟数でございますが、空き家棟数が302棟でございます。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） ありがとうございます。空き家数が302棟ということで、302棟ある空き家のうち、今、バンク登録されてるのが4棟ということで、非常に少ない登録数だなというふうに、ちょっと今びっくりしたんですけども。

このバンク登録のやり方というか、先ほど所有者にしてもらおうということふうなことを言ってきましたけども、町として積極的に何か302棟あるうちの登録してもらおうようなお願いというか、そういったことは何か具体的にされていますか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 先ほども申し上げましたとおり、所有者及び管理者の方がわからないというのが実情でございます。そのために、所有者及び管理者を調べるということが重要ではなかろうかなというふうに思っていますので、区長さん等を通じながら調べていきたいというふうに考えております。わかり次第、お願い文書等を通じて、登録にしてもらいたいというふうに考えてるところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） ぜひ明確にさせていただいて、借りたいという要求数が32ほどあるということなんで、どんどんやってほしいと思います。先ほど申したように、空き家対策特別措置法の中に、所有者を特定できるというような制度がたしか含まれてたと思いますので、その辺も行使して、ぜひ所有者の特定を早めさせていただきたいと思います。

昨日、岩尾議員のほうからありました青津山住宅の件ですが、今、町営住宅が老朽化していて3分の1ぐらいしか住んでないという状況ということで、例えばですけども、この空き家、点在してるんで集合住宅ではないんですけども、そういう空き家を町営化というか、町があっせんしてそこに住んでもらうというようなことは考えられないでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 町内におきましては、民間のアパート等も多数ございます。また、町営の住宅につきましても、仁王及びいろいろございます。空き家については、今のところ、町営化する等については検討したことはございません。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 今後も、そういうことは検討の余地もないということでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 需要と供給のバランスが保たれてる状況であれば、ちょっと難しいのではなかろうかなというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 要求は、先ほどのあれで32件あるということですので、必要に応じて、可能であればそういったことも考えていただいて、空き家、放っておけば倒壊のおそれもあるし、家って風通ししないと、誰か住まないと老朽化というか、著しく傷むので、できればそういう空き家の活用法として、一つの案として検討いただきたいと思います。

続きまして、空き店舗対策なんですけど、空き店舗件数の推移及び活用状況はどうなっていますか。また、今後の取り組みはどのようにお考えでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 空き店舗について、さざんか通り商店街についてであります、正確に把握してるわけではございませんけども、今現在、約15あるんじゃないかなというふうに思っております。昔に比較しますと、店舗が住宅に変わったりしまして、店舗数もかなり減少してるんじゃないかというふうに思われます。そういう中で、空き店舗も、若干ですが最近増加傾向にあるのではないかとこのように思っております。空き店舗についての活用状況であります、やはり長期間空き店舗の状態が続いてる物件が数多く見られるような気がいたします。

町としての取り組みであります、平成26年、今年度から初めての取り組みであります、空き店舗に対する助成金制度を設けました。これにつきましては、内容は改装費等について補助率2分の1の100万限度、賃料について2分の1の月2万の1年間限度というような形で設けて、今回、1件助成が決定をいたしております。そして、今後平成27年度につきましては、地方創生の先行型の予算、交付金を活用しまして、補正予算で2件分を計上させていただいております。

ですが、商業集積は区画整理地域の中にも進む中に、旧商店街の活性化というものがなかなか難しい状況にあります。そういう中で、商工会と連携しながら、空き店舗の活用という形で助成金制度を設けた中で様子を見ながら、今後、活性化を図っていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 課長の言うとおりでと思います。空き店舗助成事業については、昨年1件、来年度、27年度は2件ということで、拡充方向で取り組んでいただいているという

ことですけれども、例えばそういう空き店舗なんですけれども、ある方がずっと借りるのではなくて、一時借用というか、例えば週末のみとか、さざんか通り商店街近辺でイベントがあるごとに、そこをお借りして何か出店してもらおうといったような活用方法もあるかと思うんですけれども、そういう検討はされたことがありますか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） その検討についてはしたことはございませんが、イベント等については、今回、深見記念館を創設しておりますので、そういう中でイベントという活用はできるかなというふうに思います。そういう中で、人が商店街のほうに集まる中で商売する機会が発生して、それについて週末ごとにとということになりますと、やはり賃貸契約の中でうまくいくかどうかっちゃうのは結構難しい問題があるのかなというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 確かに、普通に考えれば難しいんだとは思いますが、多分、どこもがやっていない、ほかの自治体でやっていないような取り組みも必要じゃないかというふうに考えますので、頭の片隅にでも置いてもらって、何かのときにそういうアイデアも出していただければと思います。

南三陸町等々に行くところなんですけれども、空き店舗もそうですが、復興マルシェみたいな、そういう何か販売したい人が集まって、にぎわい空間をつくって販売するというようなことも考えられるかと思しますので、ぜひそういう空き店舗を活用してやっていただきたいと。昨年、杵築市で、ちょっと空き店舗ではないんですが、空き地を活用してマルシェ的な出店、露天を3カ月間限定で開いたと。それについては、かなり大盛況だったというようなことも聞いてますので、イベント的ではあるんですけれども、にぎわい空間の創出等々も考えていただきたいというふうに思います。

次の質問に移ります。

WHO世界保健機構が提案する居住環境の4つの理念では、安全性・安心性・利便性・快適性が基本的な生活要求とされています。日出町としても、居住環境の4つの理念に沿って、第4次日出町総合計画後期基本計画で、「人と自然が調和したふれあいと活力あるまち」を将来像に、人口3万人を目指し、さまざまな施策がとられてきたと思います。その最終年度を迎えた今、日出町の住環境をよりよくするためのインフラ整備についてお尋ねします。

町道、生活道路整備状況及び拡充はどのように計画されているでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 阿部議員の御質問にお答えいたします。

主要集落を結ぶような主要幹線道におきましては、国庫補助事業として、用地買収をしながら

幹線道路の改良事業を行っております。現在は、町内3路線で改良工事を行っております。この国庫補助事業につきましては、来年度も新規路線を加えながら実施していきたいと考えております。

生活道路といわれますその他の町道につきましては、各地区の区長さんと協議を重ねながら、原則、用地無償提供していただきながら、拡幅改良や離合所の設置を進めております。今年度は、14本の拡幅工事や数カ所の離合所設置を行っております。来年度も各地区の区長さんから要望が出ておりますので、要望の出た場所から、新規路線等を加えながら実施していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 今、主要幹線道路で3路線、その他の道路で14本ということで、17本の計画があるということですが、この17本がどこかわからないというか、どうなってるのかと。町民の方に会ると、あの道はどうなっちゃうのかなといったような質問を受けるんですけども、答え切れないということがちょっとありまして、道路17本について、少なからず、例えばここにいる議員に対しては、どの路線がどういう計画でどこまで行っているといったような整備計画、進捗状況をぜひ配布していただきたいと思います。

また、でも町民の方にもわかるように、どこをいつまでにやるよといったような計画を公表していただきたいと思いますが、それは可能でしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 14本と3路線、こういう資料につきましては、また議会のほうに提供したいと思います。

それから、生活道路とか国庫補助事業、これを町民全部にということなので、町報等に随時完了したときは載せておるんですけども、また新規に予算等をつけた時点で、また町報等で公表していきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） ぜひ公表、また我々にその状況がわかるようにお知らせいただきたいと思います。

あと、中心市街地の整備はかなり進んできているかと思いますが、郊外、例えば回天基地等々に行こうといったときに、そういう観光施設へのアクセス道路の整備は、今後何か考えられているでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 今現在行っております高尾地区、県道日出真那井杵築線からホンダ太陽、それから高尾地区、深江港に向かって内野深江港線、この道路が今年度1,200メートル、9割方完成するのではないかというふうに思っております。それから、平成27年度、今現在計画してる場所が、平原グラウンドの前からやはり深江港に向かう部分についての改良工事も予定しております。

重要な幹線につきましては、今後も計画を進めていきたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） ぜひ、そういったフォローを進めてほしいと思います。

例えば、今、先ほどから、3本は国庫支出金ということなんですけども、残りの14本、または今後さらに要望があれば、土地を出してくれれば考えるといった生活道路について、そういうところを計画する場合に、今も14本走っているということなんですけども、並行で行うのもいいのかとは思いますが、道路をつくる場合、何本も並行した場合に優先順みたいなのは何があるんでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 町道の改良につきましては、必ず用地が必要になります。今現在4メートルの道路を6メートルにさせていただきたいとなりますと、用地を提供していただかなければできませんので、この用地につきまして、かなり時間を要します。そのため、地元の強い要望があって用地提供者からスムーズにできれば当然早くできますし、道を広げてほしいのだが、どうしても地権者との交渉が時間がかかってしまうという状況が多々あります。ですから、地元の強い熱意のあるところからやっております。

それから、全部の路線、この間を拡幅したいという区間がありまして、一部分ができて、その部分だけは離合所とかいうことも考えておりますので、もし強い要望があれば、できるだけ早い時期に区長さん等を通じて御相談いただければ、建設課のほうで対応できるように。とにかく着手するというのが私ども建設課のモットーでございますので、相談していただければ早くできるようになると思います。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） ぜひ、住民の要望を聞いていただきまして、交通網の整備に尽力を尽くしていただきたいと思います。

続きまして、上下水道整備状況及び拡充はどのように計画されているでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 上下水道課長、大塚一路君。

○上下水道課長（大塚 一路君） それでは、阿部議員の質問にお答えいたします。

まず、上水道の整備状況ですが、水道第5次拡張事業におきます給水区域としまして4,070ヘクタール、給水計画人口で2万5千人でございます。今、25年度末で、給水人口は2万4,597人ですので、計画人口に対する普及率といいますのは、98.4%という形になっております。

また、今後の上水道の拡充計画ではありますけど、議員、御承知と思いますけど、日出町の上水道は地下水、湧水が主要な水源となっております、給水区域の拡大に対しましては、まず、新たな水源の確保が必要でございます。そのため、本年度におきましても、水源確保のため、水源調整委託を発注してるところでございます。この水源を担保した上で、今後の給水区域の検討をしていきたいと考えております。

続きまして、下水道事業の整備状況ですが、こちらは、農業集落排水事業、漁業集落排水事業につきましましては、もう既に事業を完了しておりますので、公共下水道事業について説明をしたいと思っております。

こちら、平成29年度までの事業認可になりますが、認可区域面積として709ヘクタール、計画人口2万1,600人です。現在、この事業認可区域内における整備済み面積は460.11ヘクタール、人口にして1万5,615人となっております。整備率としましては、約65%という状況となっております。

下水道の今後の拡充計画ですけど、公共下水道事業におきましては、認可区域内における公共下水道区域や浄化槽区域の将来性や経済性等の検討を行い、区域の見直し計画とも言える公共下水道排水処理基本構想を、5年に1度、県下一斉に策定することとなっております。くしくも、本年26年度がその排水処理基本構想の策定の年に当たり、現在、日出町におきましてもその構想を策定中でございます。その結果を受けまして、経済性、社会情勢等々を考慮しながら、区域の拡大または区域の縮小も含めた拡充計画を検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 先ほど、今、日出町の上水道4,070ヘクタールで、供給人口2万5千人というふうに伺いましたけども、今、町長が言ってる人口3万人といたときに、今の供給量では5千人ほど不足するというふうに単純計算ではなるんですけども、その辺は今後、拡充として何か新たな水源等々の確保は考えていますか。

○議長（熊谷 健作君） 上下水道課長。

○上下水道課長（大塚 一路君） 今現在、給水区域としましては、ほぼ町内網羅しておるんですが、ただ、広がるエリアにもよりますけど、水につきましましては3万人になっても水としては担保

できます。

ただ、今、水源確保を調査してるのは、上流部。どうしても、経済的に安価な水を出すためには自然流下で水を給水すると、そういった意味で、高い位置での水源確保を、今、調査中がございます。ですから、3万人に対しても、水の供給は十分対応できます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） じゃあ、3万人になっても心配ないということですね。

第4次総合計画では、簡易水道事業と上水道事業の統合を目指し、経営の安定化を図るというふうにありますけども、それについて進捗状況はどのようになっているのでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 上下水道課長。

○上下水道課長（大塚 一路君） 今、簡水統合、上水統合を今上下水道課で検討しておりまして、進捗状況としましては、関係する豊岡地区と南端地区の区長さんには一応統合する旨の説明、南端地区は4月の新役員になってからという要望がございましたので、豊岡地区につきましては現関係区長さんの説明は終わっております。

今月、あした6日には、まず豊岡の新町から地区のほうに下りて説明会をする予定にしております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） ぜひ、計画にのっとして進捗のほうをお願いしたいと思います。

上下水道については、生活を行う上で、なくてはならない最重要インフラだと思います。今後も、全ての住民へ、平等に安心かつ安定供給ができるように整備していただきたいという願いを込めまして、私の質問を終わります。

○議長（熊谷 健作君） これで一般質問を終わります。

散会の宣告

○議長（熊谷 健作君） 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会したいと思います。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（熊谷 健作君） 異議なしと認めます。したがって、本日はこれにて散会することに決定しました。

本日はこれで散会します。御苦労さまでした。

午後 2 時38分散会
